

第11次南木曾町総合計画策定にかかる 基礎調査報告書

令和7年3月

目次

基礎調査の概要.....	1
第1章 地勢.....	2
第2章 人口動向.....	3
1. 人口の現状分析.....	3
(1) 総人口および総世帯数の推移	3
(2) 年齢3区分別人口の推移	3
(3) 人口ピラミッド	4
(4) 地区別人口の推移	4
(5) 自然動態の状況	5
(6) 社会動態の状況	6
2. 将来人口推計.....	11
(1) 将来の人口構造	11
(2) 将来人口の推計・分析	12
第3章 地産業・雇用の状況.....	13
1. 南木曽町の就業者の状況.....	13
(1) 就業・雇用の状況	13
2. 南木曽町の産業の状況.....	16
(1) 産業連関分析	16
(2) 産業別の状況	19
第4章 コミュニティ・社会基盤.....	30
1. 地域防災.....	30
2. 交通安全.....	30
3. 交通.....	31
4. 自動車等の保有状況.....	32
第5章 子育て・教育.....	33
1. 子どもの状況.....	33
(1) 子どもの数の推移	33
(2) 蘇南高校への進学状況	35

(3) 蘇南高校卒業後の進路	35
第6章 健康・医療・福祉.....	36
1. 健康づくりの状況.....	36
(1) 平均寿命	36
(2) 保健師一人当たりの人口	36
(3) 死亡者数および死因の推移	37
2. 医療の状況.....	40
(1) 医療費	40
3. 高齢者福祉の状況.....	41
(1) 高齢化の状況	41
(2) 介護保険の状況	43
第7章 環境・エネルギーの状況.....	47
1. ゴミの排出量.....	47
2. 再生可能エネルギー導入容量.....	47
第8章 行財政の状況.....	48
1. 税収入および住民一人当たり税収入の推移.....	48
2. 町民一人当たりの扶助費.....	48
3. 町民一人当たり地方債残高.....	49
4. 町民一人当たり積立金残高.....	49
5. 経常収支比率の推移.....	50
6. 木曽郡内町村及び類似団体との財政指数の比較.....	50

基礎調査の概要

1. 基礎調査の目的

基礎調査(以下、本調査)は、第 11 次南木曽町総合計画(以下、総合計画)の策定にあたって、統計データを確認することで町の人口・産業をはじめとする各行政部門を取り巻く環境の変化を客観的に捉えることを目的として行うものです。

本調査では、時系列分析と他自治体との比較分析を行うことで、本町で生じている傾向や変化と町の強み・弱みの把握を行います。

2. 本書の構成

第1章	地勢から南木曽町の特徴を明らかにする
第2章	町の人口構成や特徴、今後の人口推計について整理する
第3章～8章	総合計画の各施策分野に対応するデータを用いて町の状況を確認する

3. 比較対象自治体

南木曽町と比較する町村は人口規模や産業構造を考慮し、以下としています。

類似町村名	泰阜村・小川村・大桑村・筑北村・青木村・根羽村
-------	-------------------------

第1章 地勢

南木曽町は、長野県の南西部・木曽谷の南端に位置し、町の面積（215.93 km²）の約9割以上が森林で占められており、そのうち約7割が国有林です。

東は伊那谷の飯田市・阿智村、西は岐阜県中津川市、北は大桑村に隣接しています。町の中央を流れる木曽川沿いには、南北にJR中央本線と国道19号が走り、東西には国道256号が伊那谷に通じています。隣県の中津川市中心部まで約22km、県内近隣市町村の木曽町まで約35km、飯田市まで約35kmの距離にあり、古くから伊那谷、木曽谷と美濃を結ぶ交通の要衝でした。

当町は東西20km、南北15km、周囲70kmの山間地であり、木曽川と、東の木曽山脈側からの蘭川・与川、西側からの坪川・長谷川・柿其川等の支流により形成された狭い段丘上に、与川・北部・三留野・妻籠・蘭・広瀬・田立の7集落と農用地が細長く点在しています。各集落の標高は約300mから約950mにおよんでいます。

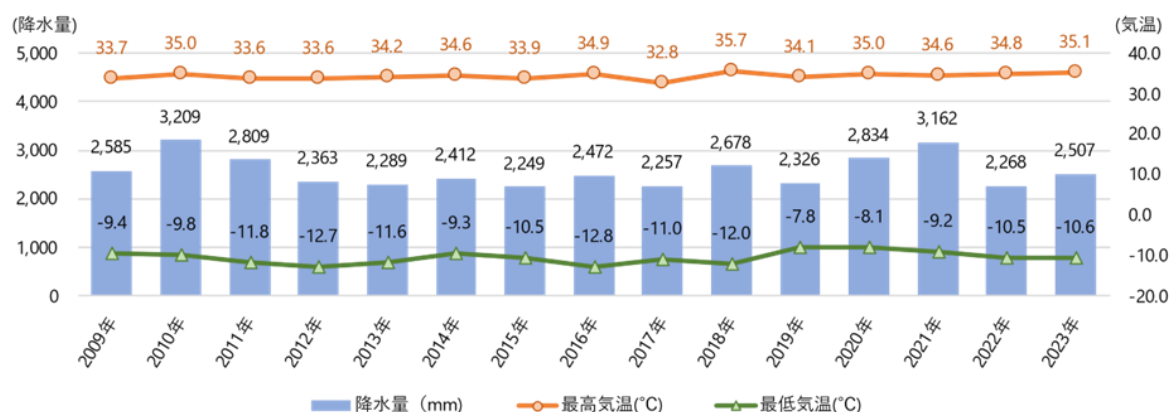
木曽川右岸側の最高峰は奥三界岳（1,811m）、左岸側は摺古木山（2,169m）となっており、中央には標高1,676mの南木曽岳がそびえ立ち、急峻な斜面が多く平坦面が少ない地形となっています。地質の大部分が花こう岩類で、風化作用により崩れやすい基盤岩を含む山体や、基盤岩を被う未固結の段丘堆積物・崩積土などが分布しています。

気候は温暖で雨量が多く、年間降水量は多い年には3,000mmに達します。近年は地球温暖化の影響からか、警報級かつ季節外れの豪雨や台風により災害へのリスクがこれまで以上に高まっています。

図表 1 南木曽町の地形



図表 2 降水量と気温の推移



出典：気象庁ホームページ

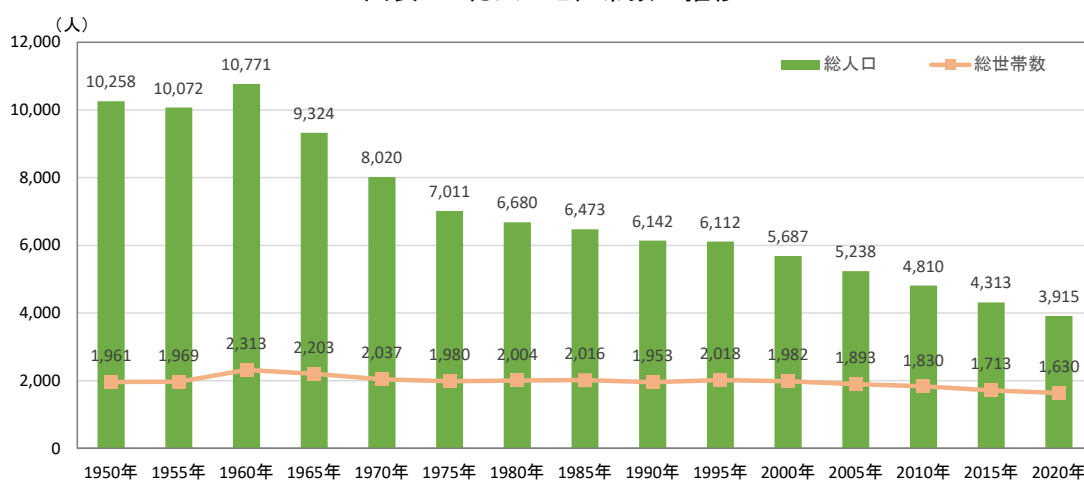
第2章 人口動向

1. 人口の現状分析

(1) 総人口および総世帯数の推移

町の総人口は1960年をピークに減少し続け、2020年に初めて4,000人を下回りました。総世帯数は1970年以降、2,000世帯前後で推移してきましたが、2005年ごろから減少し始め、2020年は1,630世帯まで減少しています。

図表 3 総人口と世帯数の推移

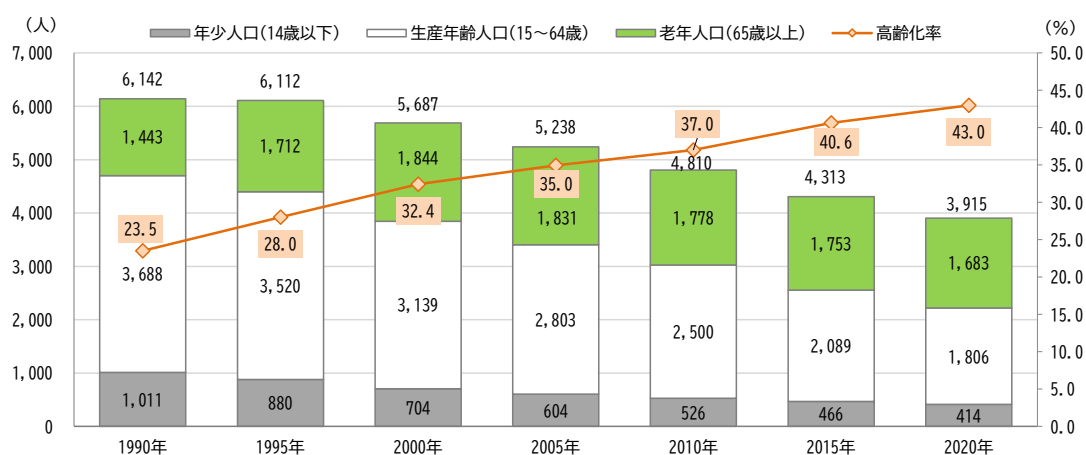


出典：国勢調査

(2) 年齢3区分別人口の推移

年齢3区分別の人口をみると、年少人口、生産年齢人口は減少が続いています。老年人口は2000年をピークに、その後は減少の局面に入っています。高齢化率は一貫して増加しており、2020年は43.0%となっています。

図表 4 年齢3区分の人口と高齢化率の推移

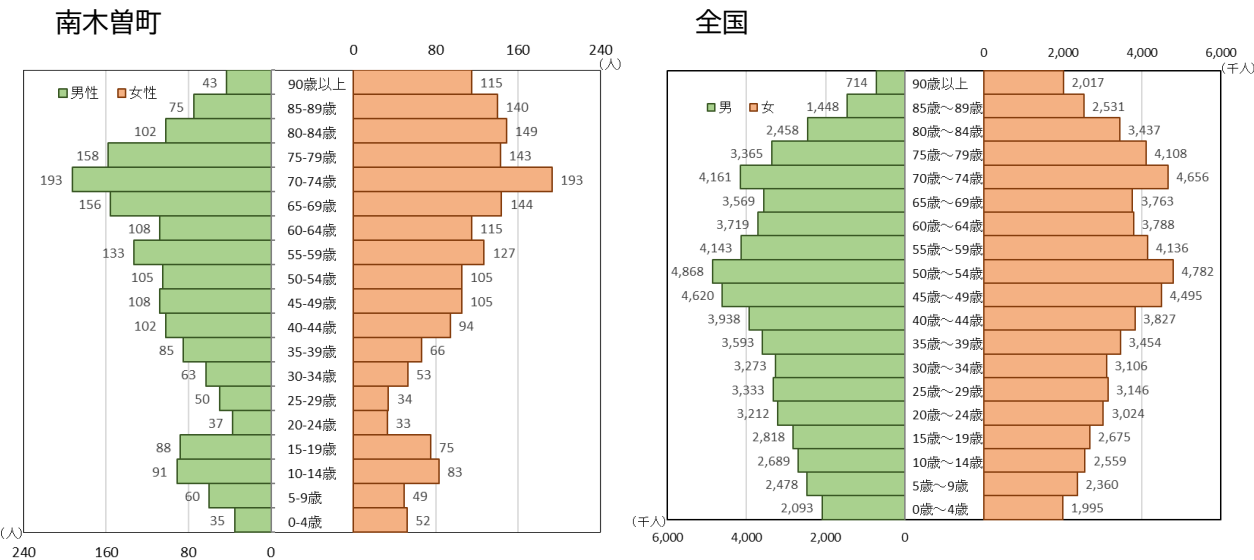


出典：国勢調査

(3) 人口ピラミッド

年齢別の人口を全国と比較すると、当町は 20～30 歳代の人口が極端に少なく、進学や就職等による若い世代の流出が顕著となっています。一方、70～74 歳をピークに高齢者人口が多くなっており、高齢化が進んでいる状況です。

図表 5 南木曽町と全国の人口ピラミッドの比較

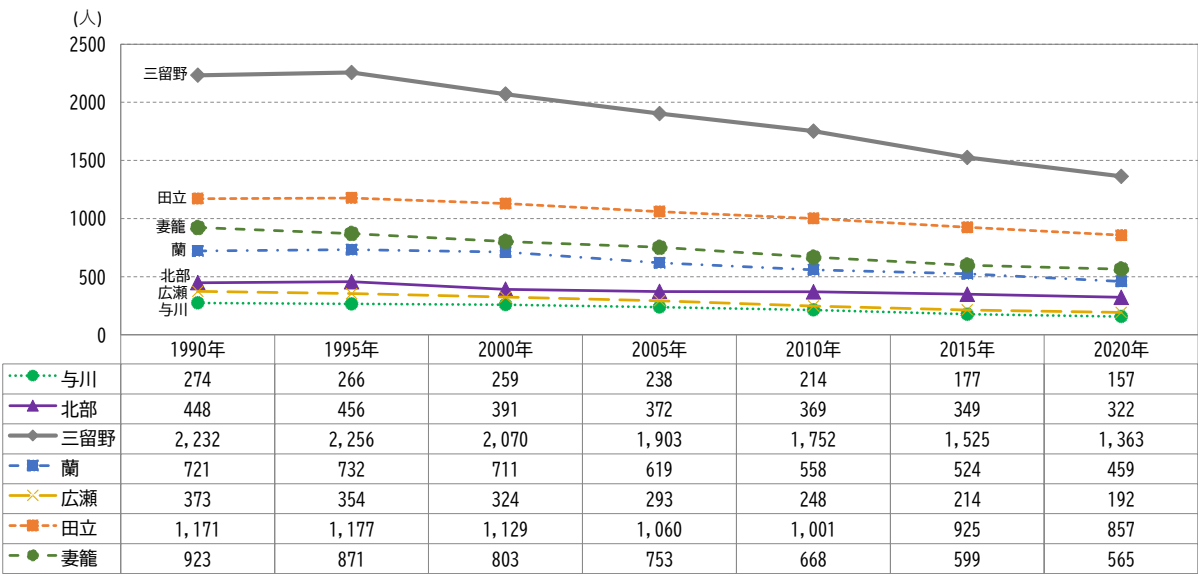


出典：全国 2023 年 総務省 人口推計（2023 年 10 月 1 日）
長野県 2023 年 毎月人口異動調査（2023 年 10 月 1 日）

(4) 地区別人口の推移

地区別人口の推移をみると、どの地区もここ 30 年で 3～5 割程度人口が減少しています。最も減少率が高いのは広瀬地区で、30 年前の半数近くまで減少しています。

図表 6 地区別人口の推移



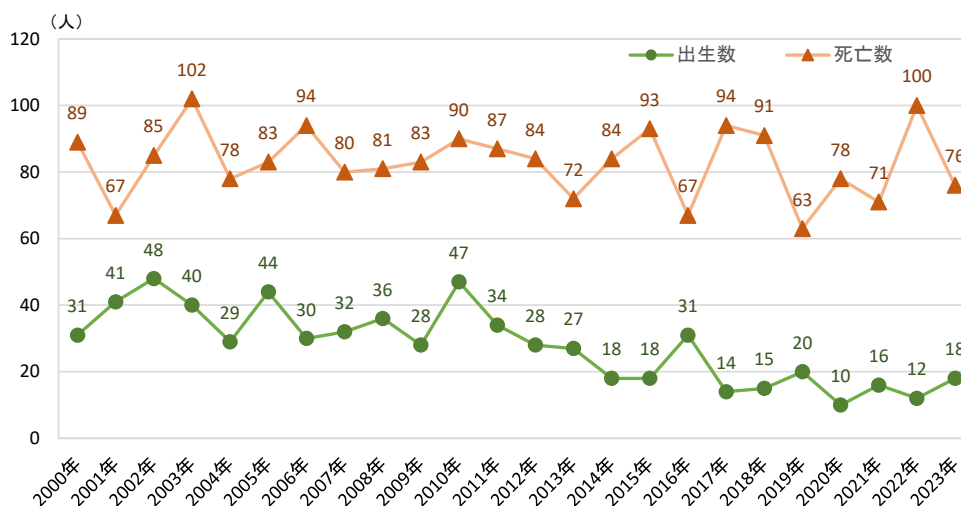
出典：国勢調査 小地域集計（総務省統計局）

(5) 自然動態の状況

① 自然動態

自然動態は、死亡数が出生数を上回って推移しています。出生数は減少が続いており、2017 年以降は 20 人以下となっています。死亡数は年によって増減がみられますが、60～100 人程度で推移しています。

図表 7 出生数と死亡数の推計

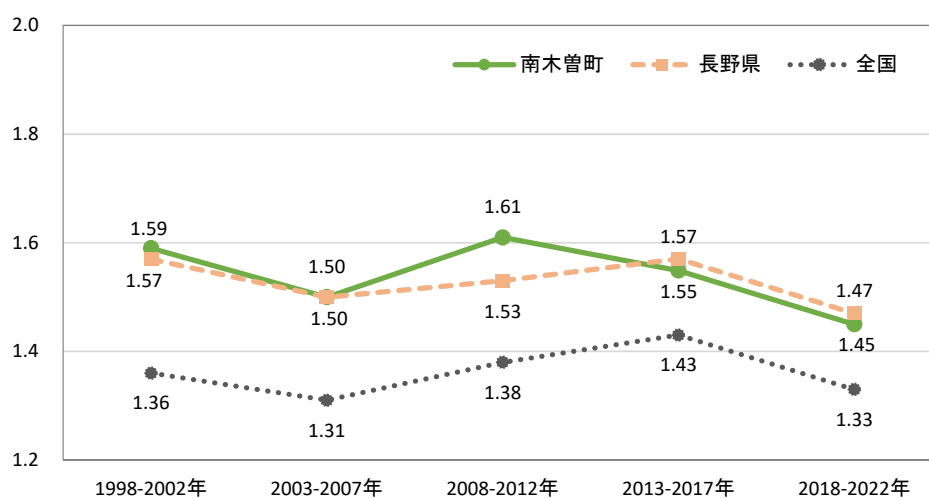


出典：厚生労働省 人口動態統計

② 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率¹は、おおむね長野県を上回る値で推移していましたが、2013 年以降は減少しています。

図表 8 合計特殊出生率の推計



出典：厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計（人口動態統計特殊報告）」

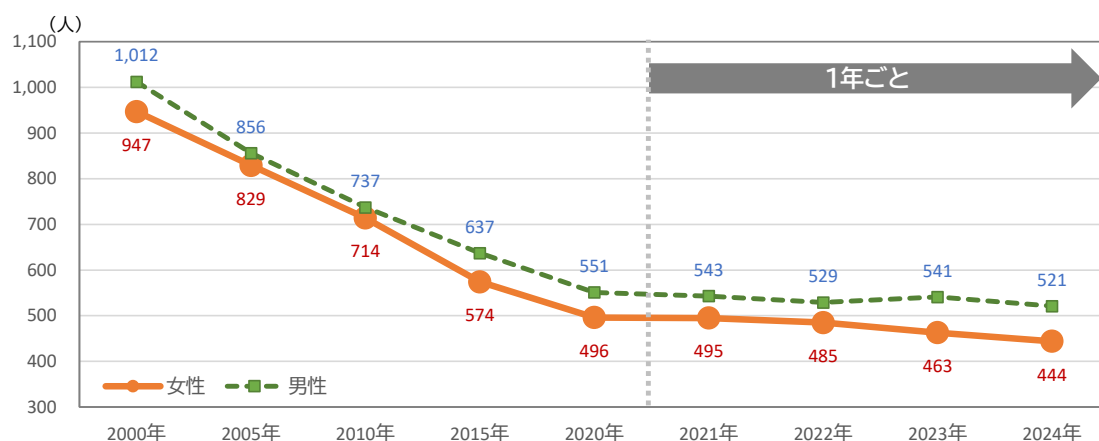
¹ 合計特殊出生率

1 人の女性が生涯に何人の子供を産むかを表す値。各年齢（15～49 歳）の女性の出生率を合計したもの。

③ 15～49 歳男女別人口の推移

15 歳～49 歳の男女別人口の推移をみると、男女ともに減少し続けています。2020 年から 2024 年までの 5 年間では、女性の方が大きく減少しています。

図表 9 15 歳～49 歳の男女別人口の推移と推計



出典：2020 年まで国勢調査

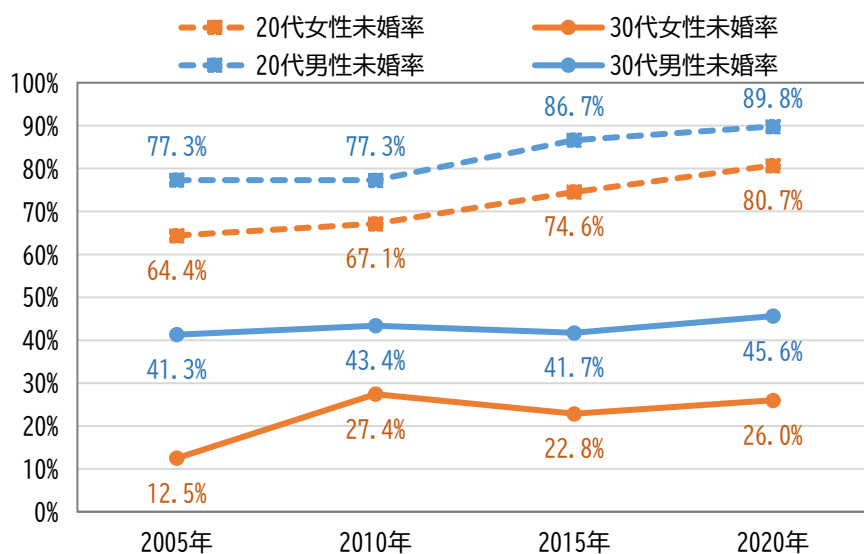
2021 年から毎月人口異動調査（4 月 1 日時点）

（6）社会動態の状況

① 20 代・30 代の未婚率

20 代と 30 代の未婚率は男女ともに増加傾向にあります。2020 年は、20 代は男女ともに 80%以上、30 代は男性の 45.6%、女性の 26.0%が未婚となっています。

図表 10 未婚率の推移

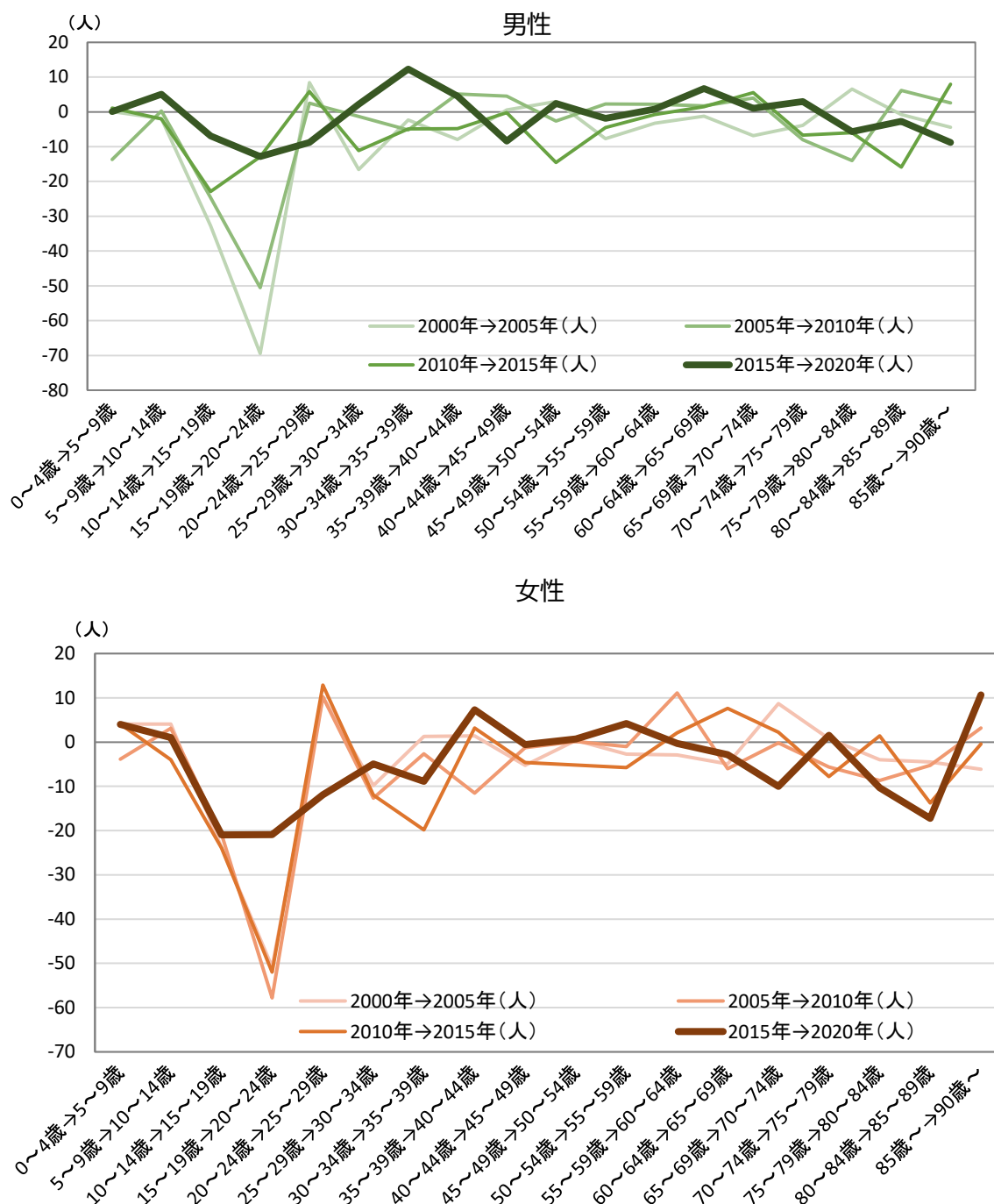


出典：国勢調査

② 年齢階級別の社会動態の推移

過去 20 年の変化をみると、10 代後半から 20 代前半にかけて転出超過となる傾向は変わっていません。最新の 2015 年～2020 年の純移動数は、男女ともに、過去に比べて転出数が少なくなっており、それだけ人口減少が進んでいるといえます。また、従来は 20 代前半から 20 代後半の U ターン世代で転入超過がみられましたが、最新値では転出超過となっています。

図表 11 社会動態の推移

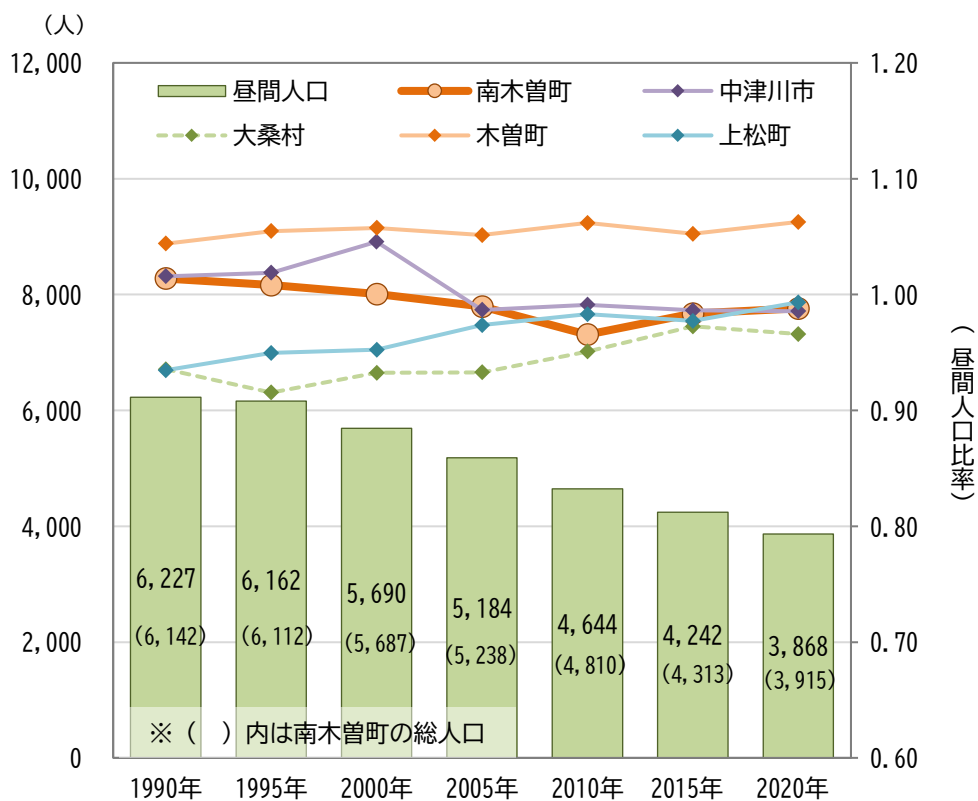


出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づくデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

③ 昼間人口

南木曽町の昼間人口は、総人口と同様に減少傾向にあり、2020 年は 4,000 人を下回っています。昼間人口比率²は 2000 年頃を境に 1 を割り込み、昼間に町内で働く人の割合が少なくなっているとみられます。

図表 12 昼間人口の推移



出典：国勢調査

² 昼間人口比率
夜間人口 100 人当たりの昼間人口の割合。

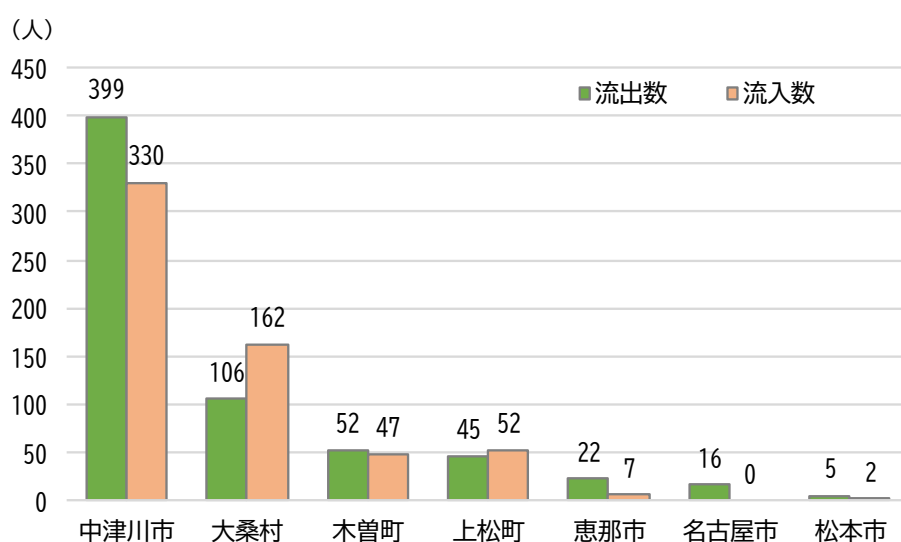
④ 通勤・通学による流入・流出状況

通勤・通学を合わせた流出・流入人口をみると、中津川市、大桑村、木曽町、上松町等との間で流入・流出する人口が多くなっています。流出・流入のいずれも中津川市との移動が最も多く、本町と中津川市が密接な関係にあることが分かります。中津川市との間では流入数より流出数が多くなっており、2020年時点でその差は69人となっています。

通勤による異動では、中津川市が最も多く（388人）、次いで大桑村、上松町、木曽町、恵那市の順となっています。また町外から南木曽町に通勤・通学する人は、中津川市からが最も多く（294人）、次いで大桑村、上松町、木曽町の順となっています。

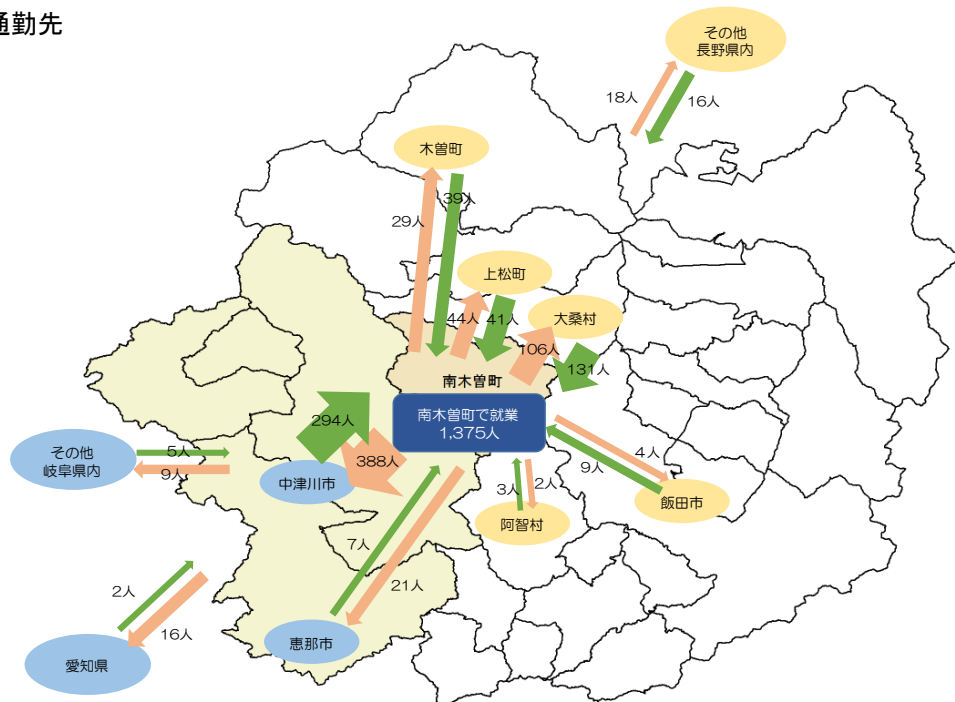
通学状況を見ると、南木曽町から木曽町へ学びに行く人が多い一方、中津川市、大桑村、上松町、木曽町から南木曽町へ学びに来ている人も一定数います。

図表 13 通勤・通学による流出・流入人口

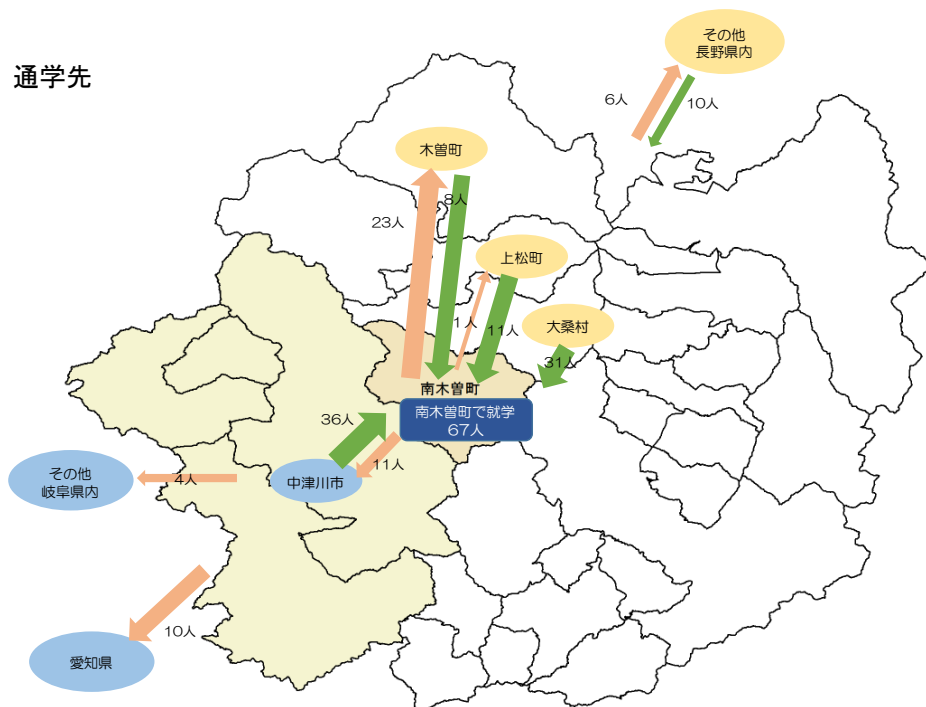


出典：国勢調査（2020年）

通勤先



通学先



出典：国勢調査（2020 年）

2. 将来人口推計

(1) 将来の人口構造

① 年齢3区分別の人口

国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の推計によれば、南木曽町の将来人口は減少傾向にあり、2050年は2,000人を下回り、2020年からの比較で半減する予測です。

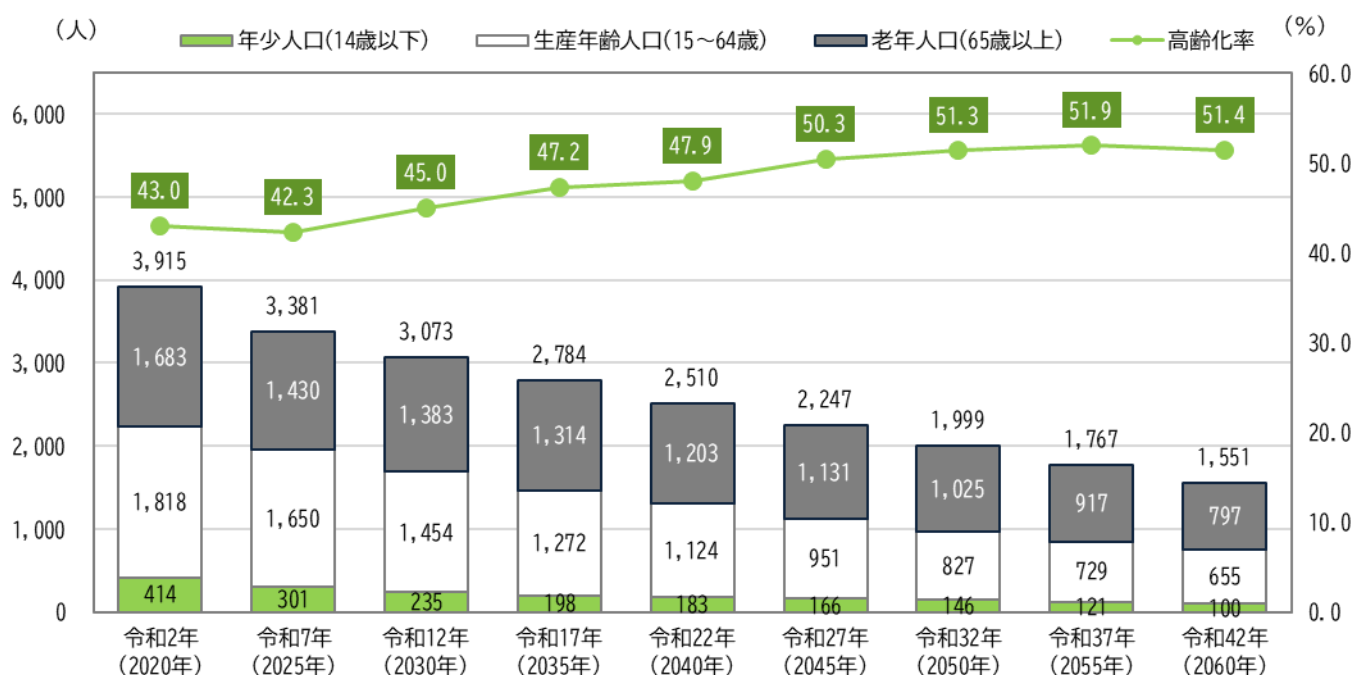
高齢化率は2045年に50.3%となり、2055年に51.9%とピークを迎えます。

高齢者人口は、2020年は、1,683人でしたが、2060年には、797人と半減する予測となっています。

生産年齢人口は、2020年は1,818人でしたが、2060年には、655人と3分の1に減少する予測となっています。

年少人口は、2020年は414人でしたが、2060年には、100人と4分の1に減少する予測となっています。

図表 14 年齢3区分の人口推計



出典：令和2年は国勢調査

令和7年以降は国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」令和5年推計

(2) 将来人口の推計・分析

① 実績人口の分析

第2期総合戦略の計画期間（2020～2024年）における実績人口は、創生シナリオを下回ったものの、社人研推計（2015年基準推計）を上回って推移しています。

図表 15 2015年を基準とした推計人口の実績人口の比較

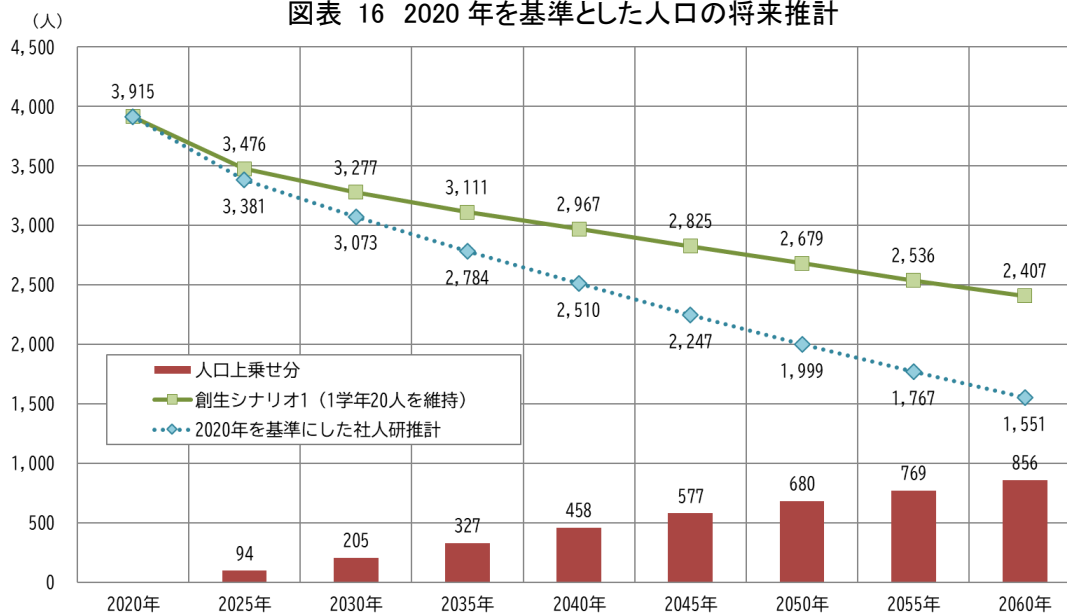


出典：社人研推計および独自推計

② 推計と目標人口

最新の社人研推計（2020年基準）では、町の人口は2040年に2,510人、2060年に1,551人になると推計されています。引き続き「2060年に5～14歳人口1学年20人を維持できる人口」を維持するための創生シナリオに基づき、独自推計した結果では、2040年に2,967人、2060年に2,407人を目指すことになります。

図表 16 2020年を基準とした人口の将来推計



出典：社人研推計および独自推計

第3章 地産業・雇用の状況

1. 南木曽町の就業者の状況

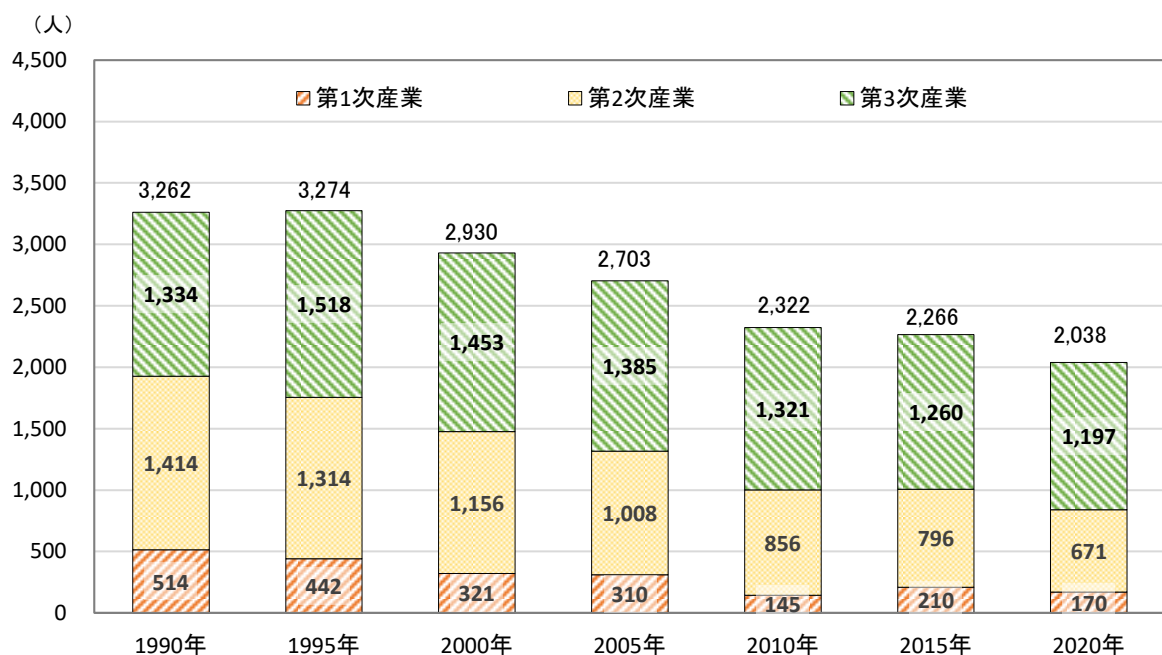
(1) 就業・雇用の状況

① 産業別就業人口の推移

就業人口は、1990年に3,262人でしたが、2020年には1,224人(37.5%)減少し、2,038人になっています。

産業別では、第1次産業は、1990年に514人でしたが、2020年には344人(66.9%)減少し170人になっています。第2次産業は1990年に1,414人でしたが、2020年には743人(52.5%)減少し671人になっています。第3次産業は1990年に1,334人でしたが、137人(10.3%)減少し、1,197人になっています。

図表 17 産業別人口の推移

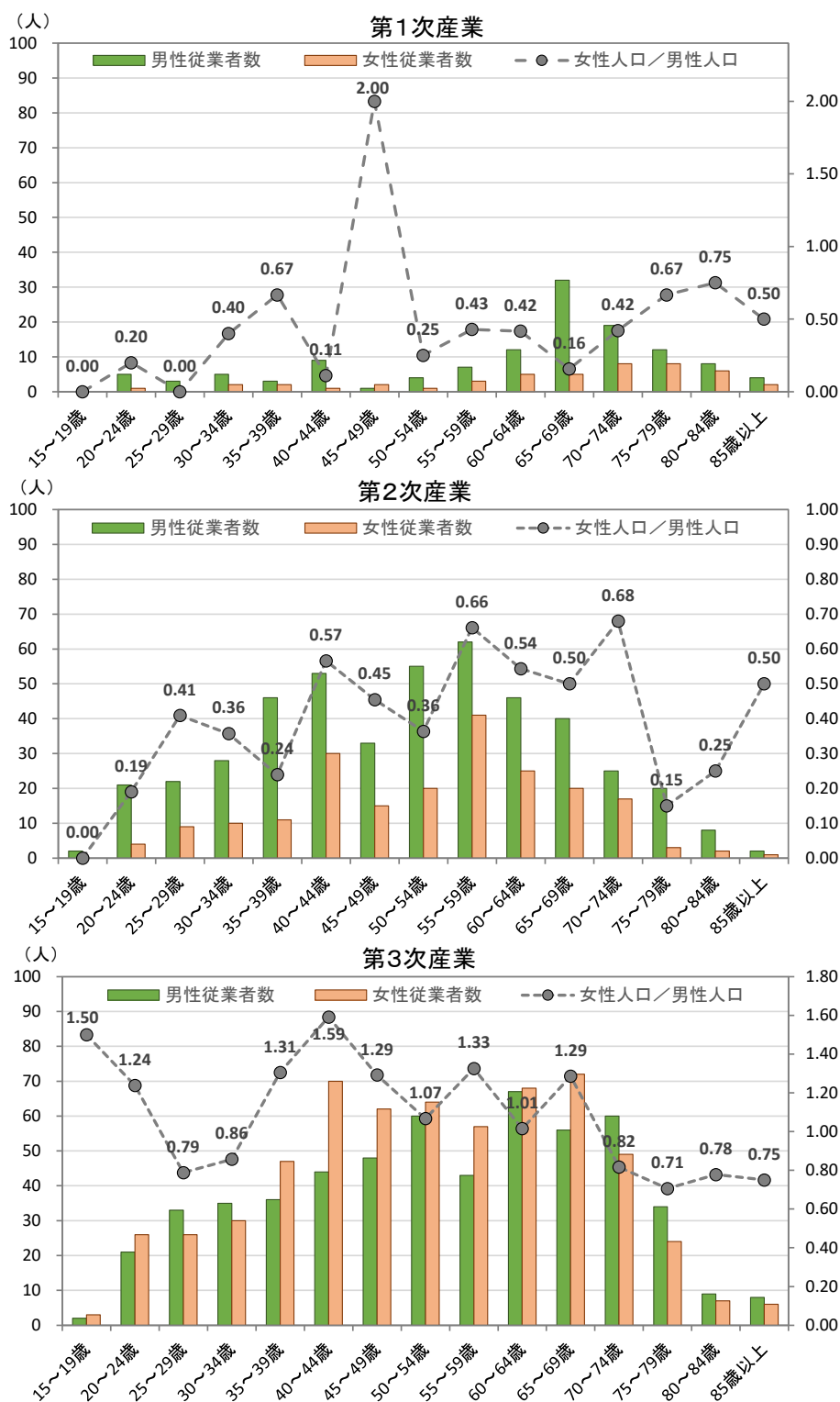


出典：国勢調査

② 従業者数の状況

第1次産業は従業者が少なく、高齢化が進んでいることがわかります。第2次産業の従業者の男女比では男性従業者が多い傾向がありますが、各世代で類似した構成割合となっています。第3次産業は最も従業員数が多く、30代後半～60代は女性従業者の方が多くなっています。

図表 18 産業別・5歳区分別・性別の就業人口

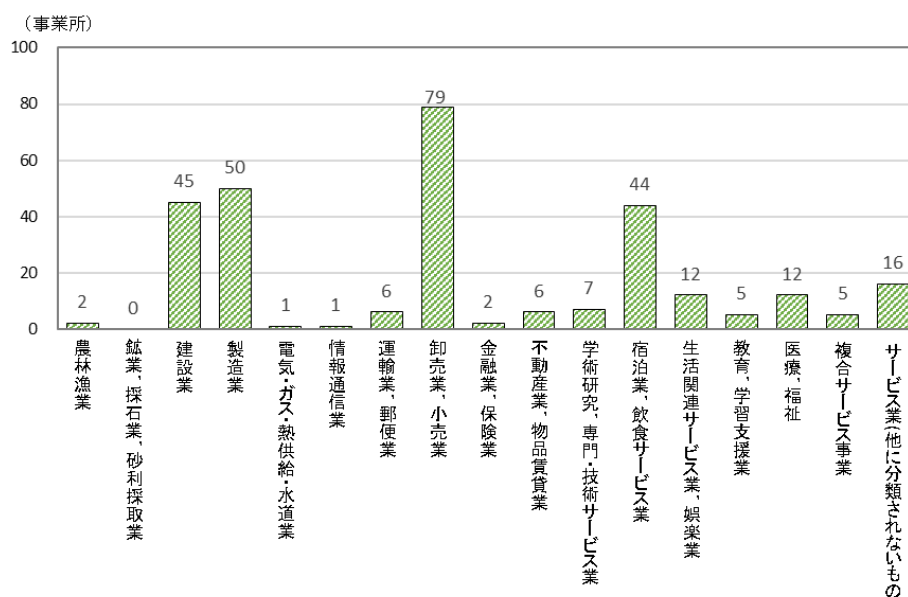


出典：国勢調査（2020年）

③ 事業所数と従業員数

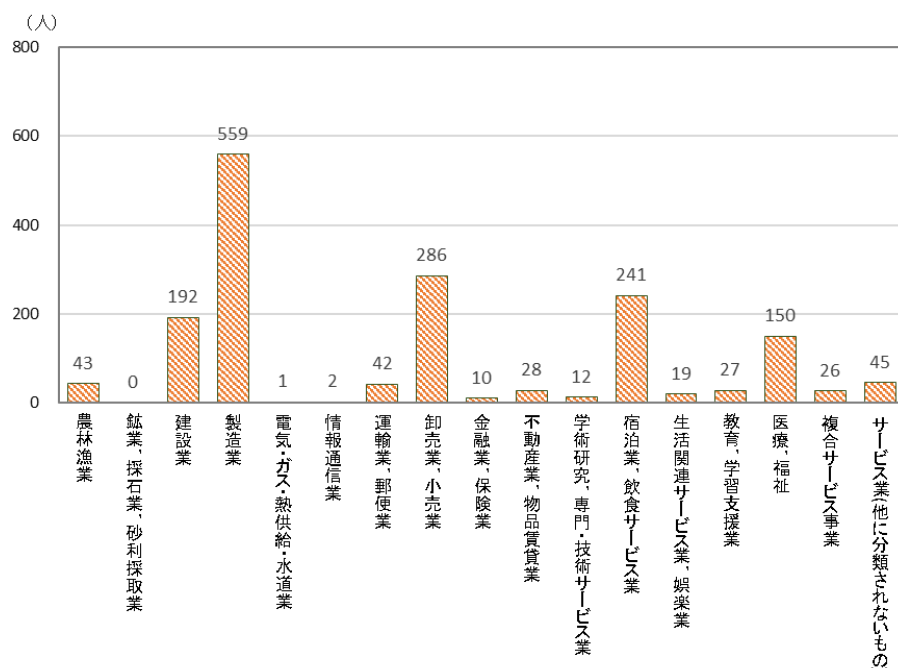
町の産業をより詳細にみていくと、事業所数では「卸売・小売業」、「製造業」、「建設業」、「宿泊・飲食サービス業」が多くなっています。従業員数では「製造業」、「卸売・小売業」、「宿泊・飲食サービス業」が多くなっており、これらの産業は多くの雇用を生み出しているといえます。また「製造業」には大規模事業者が多いのに対し「卸売・小売業」、「建設業」等は比較的小規模な事業者が多いといえます。

図表 19 事業種別事業所数



出典：2021 年経済センサス活動調査

図表 20 事業種別従業員数



出典：2021 年経済センサス活動調査

2. 南木曽町の産業の状況

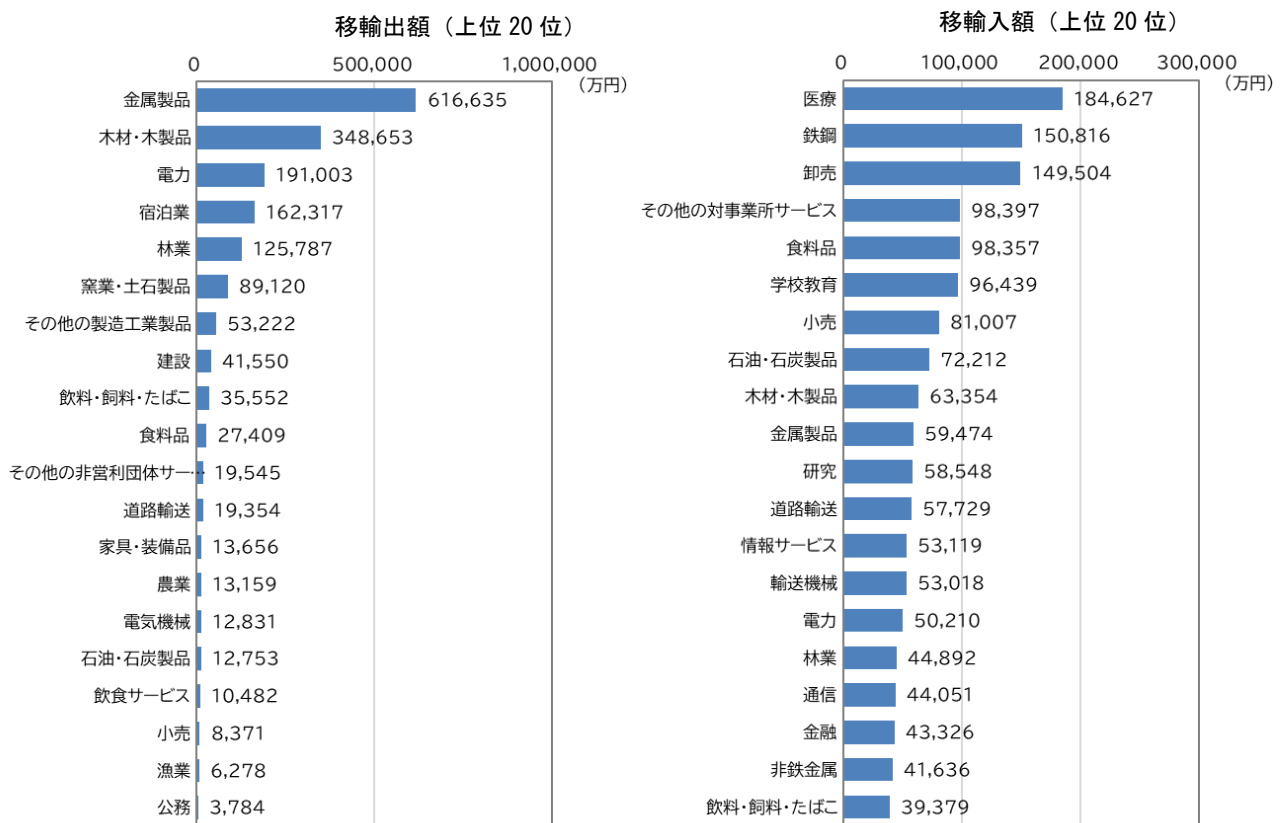
(1) 産業連関分析

長野県産業連関表³（2015 年版）から南木曽町産業連関表を作成し、産業連関分析を行いました。もとなるデータが古く、現在の町の産業構造を正確に反映できない可能性があるため、参考値とします。

① 移輸出・移輸入の状況

町で移輸出⁴額が最も多いのは「金属製品」、次いで「木材・木製品」となっており、移輸入⁵額が最も多いのは「医療」、次いで「鉄鋼」となっています。

図表 21 移輸出入額



長野県産業連関表（2015 年）をもとに作成

³ 産業連関表

一定期間内にそれぞれの産業部門が生産した財・サービスがどのように配分されたかを統計数値によって表にしたもの。

⁴ 移輸出

町外の需要を賄うために供給される財・サービスを移出、国外の需要を賄うために供給される財・サービスを輸出といい、両者を合わせて移輸出という。なお、移輸出額を町内生産額で除したものが移輸出率である。

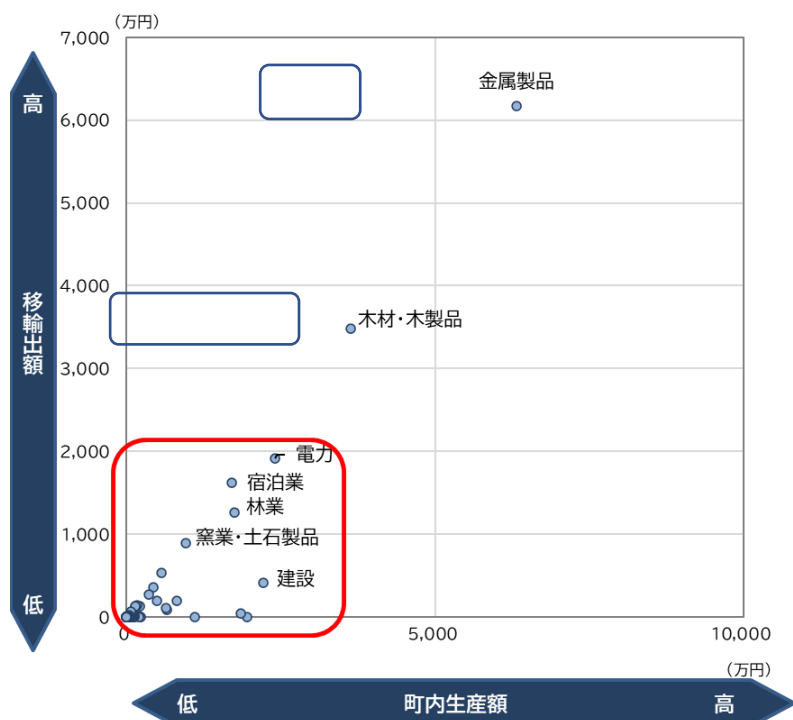
⁵ 移輸入

町内の需要を賄うために、町外から調達する財・サービスのことを移入、国外から調達する財・サービスのことを輸入といい、両者をあわせて移輸入という。なお、移輸入額を町内需要額で除したものが移輸入率である。

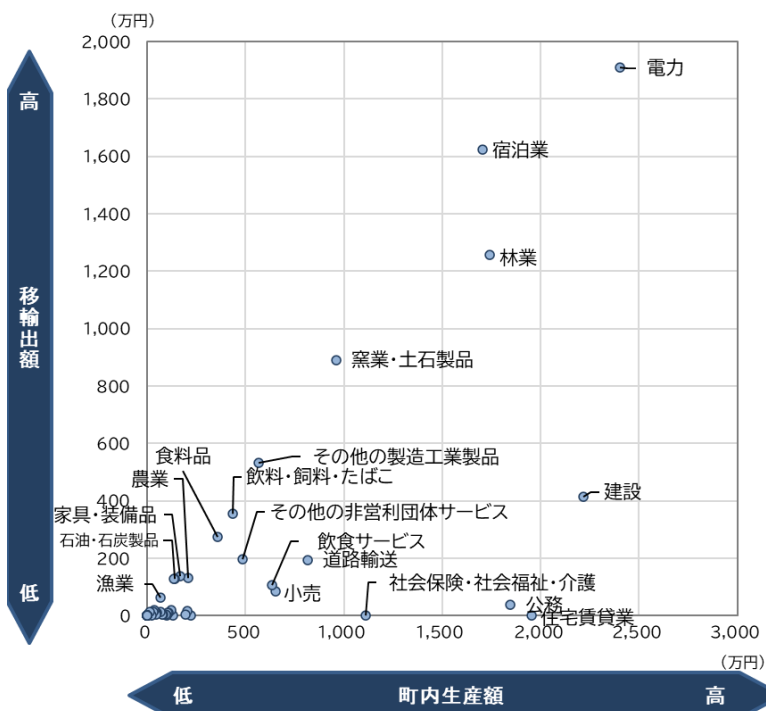
② 町内生産額と移輸出額

生産額、移輸出額の双方が大きい産業は「金属製品」、次いで「木材・木製品」となっています。「宿泊業」「林業」も一定規模となっており、町の産業は製造業、林業関連産業、観光関連産業に支えられる構造にあると考えられます。

図表 22 移輸出額と町内生産額の相対表



囲み部分を拡大

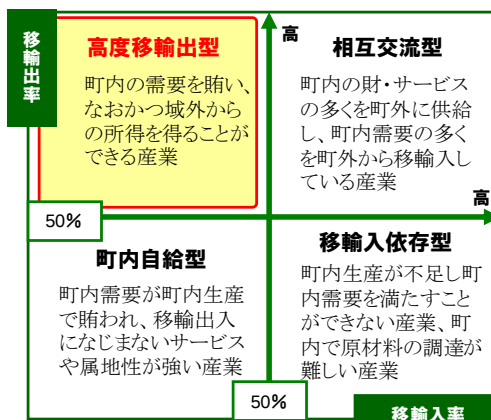


長野県産業連関表 (2015 年) をもとに作成

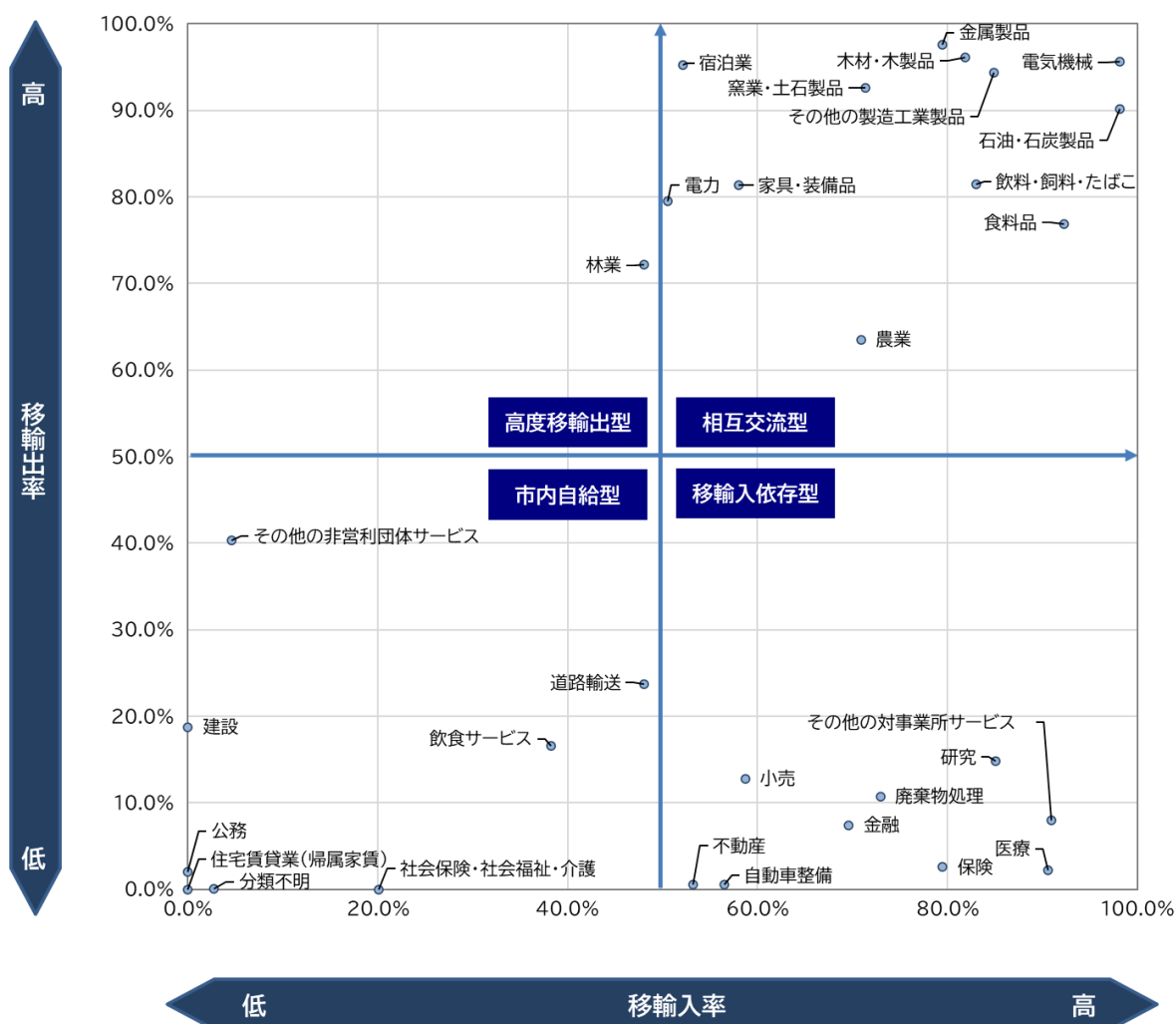
③ 移輸出率と移輸入率

一般的に産業振興の方向性は、生産額を向上させ、外貨を稼ぐことが最も優先される「高度移輸出型産業」、次いで、域外調達率を下げ（自給率を上げ）、生産額を向上させる「相互交流型産業」といった施策が考えられます。

本町では、製造業、観光関連産業、林業関連産業などが外貨を獲得しやすい産業となっています。特に、観光関連産業（宿泊、小売、飲食サービスなど）や林業関連産業（林業、木材・木製品など）は、域内調達の増加、商品開発や高付加価値化などによる生産額向上をはかることが見込めるため、産業振興においてはこうした方向性による施策が望ましいと考えられます。



図表 23 移輸出率と移輸入率の対照表



長野県産業連関表（2015 年）をもとに作成

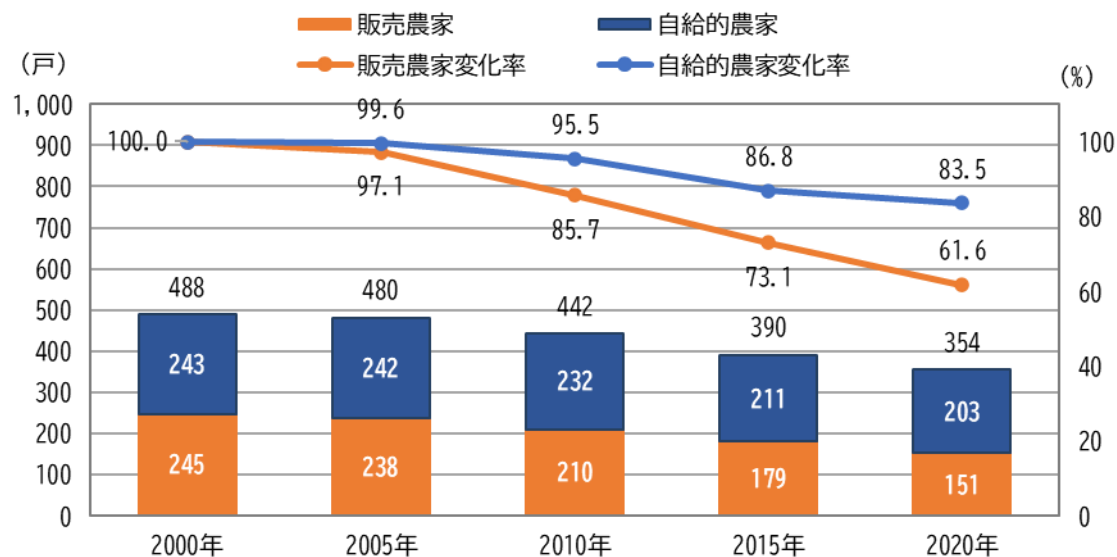
(2) 産業別の状況

① 農林業

(ア) 販売農家数、農業就業人口の推移

南木曽町の農家数は2000年から2020年で134件(27.5%)減少しており、特に販売農家数は94件(38.4%)減少となっています。

図表 24 南木曽町における農家数の推移

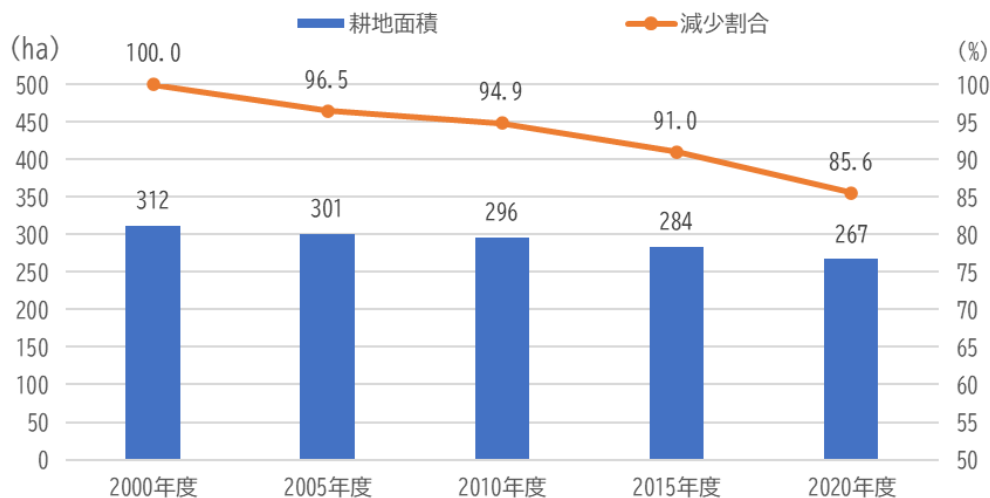


出典：農林水産省「農業センサス」

(イ) 販売農家の耕地面積の推移

南木曽町の販売農家の耕作地面積は2000年から2020年で45ha(14.4%)減少しており、販売農家数に比べ、耕作面積の減少割合は小さくなっています。

図表 25 南木曽町における販売農家の耕地面積の推移

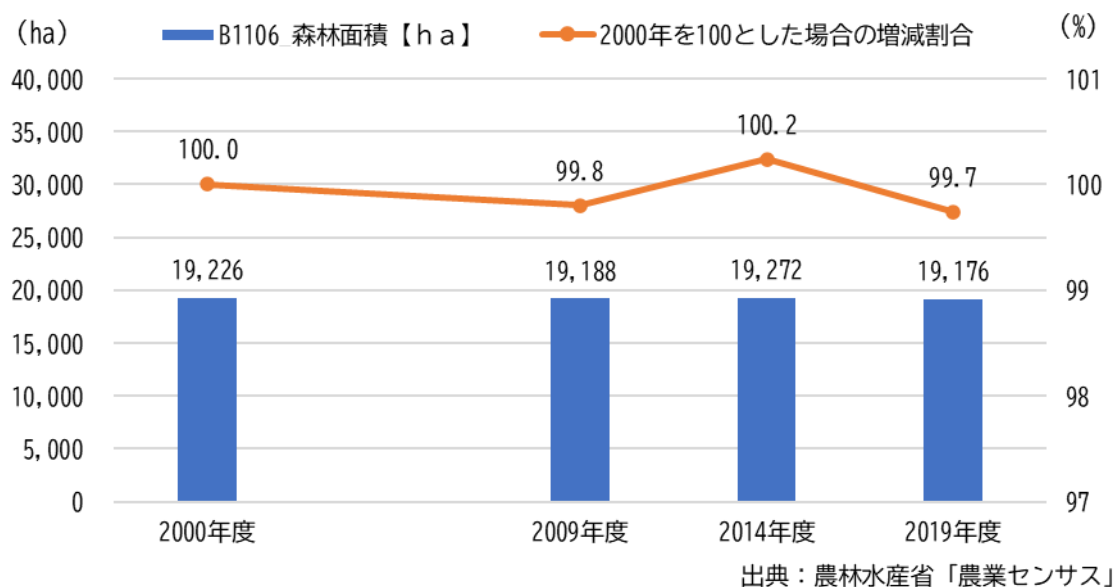


出典：農林水産省「農業センサス」

(ウ) 森林面積の推移

南木曽町の森林面積はほとんど変わっていません。

図表 26 南木曽町における森林面積の推移



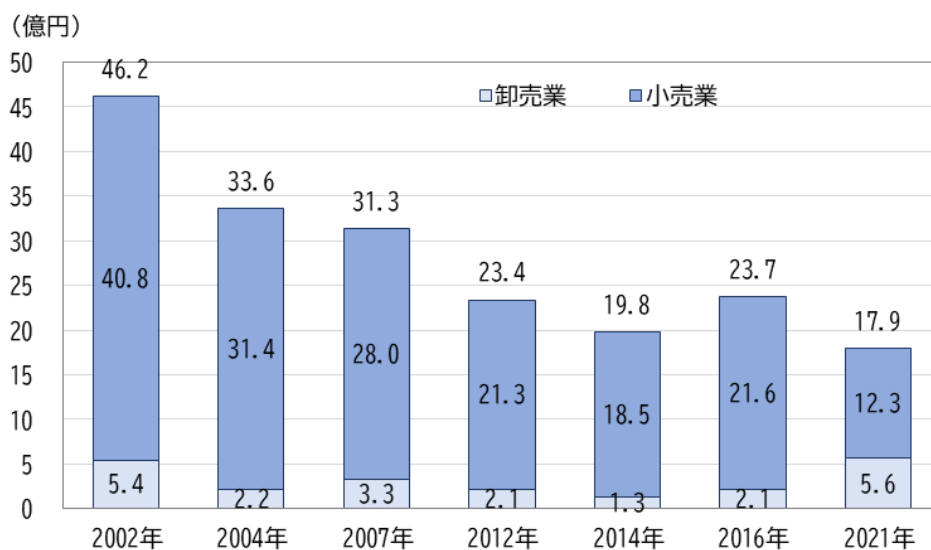
② 商業

(ア) 卸売業・小売業の年間商品販売額

卸売業・小売業の年間商品販売額は、2002年で46.2億円でしたが、2021年では17.9億円と28.3億円（61.3%）減少しています。内訳をみると、小売業が、2002年に5.4億円、2021年には5.6億円となっています。

卸売業は、2002年に40.8億円で、2021年では12.3億円となっています。

図表 27 卸売業・小売業の年間商品販売額

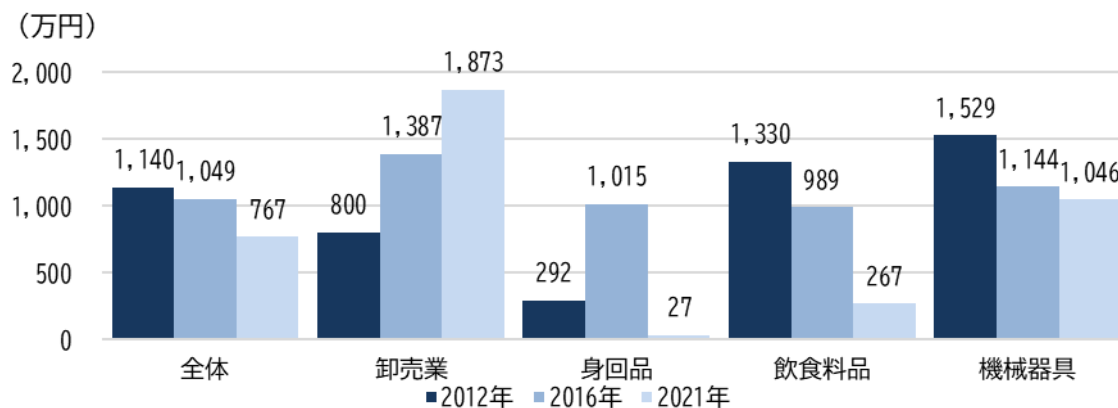


出典：経済産業省「経済センサス」

(イ) 従業者一人当たりの年間商品販売額

従業者一人当たりの年間商品販売額は、卸売業が 2012 年の 800 万円から 2021 年に 1,873 万円と 1,073 万円増加しています。変化が大きかったのは、身回品で 2012 年の 292 万円から 2016 年に 1,015 万円まで増加したものの、2021 年には 27 万円となっています。飲食料品の小売については、2012 年では 1,330 万円だったものが、2021 年には 267 万円となっています。

図表 28 従業者一人当たりの卸売業・小売業の年間商品販売額

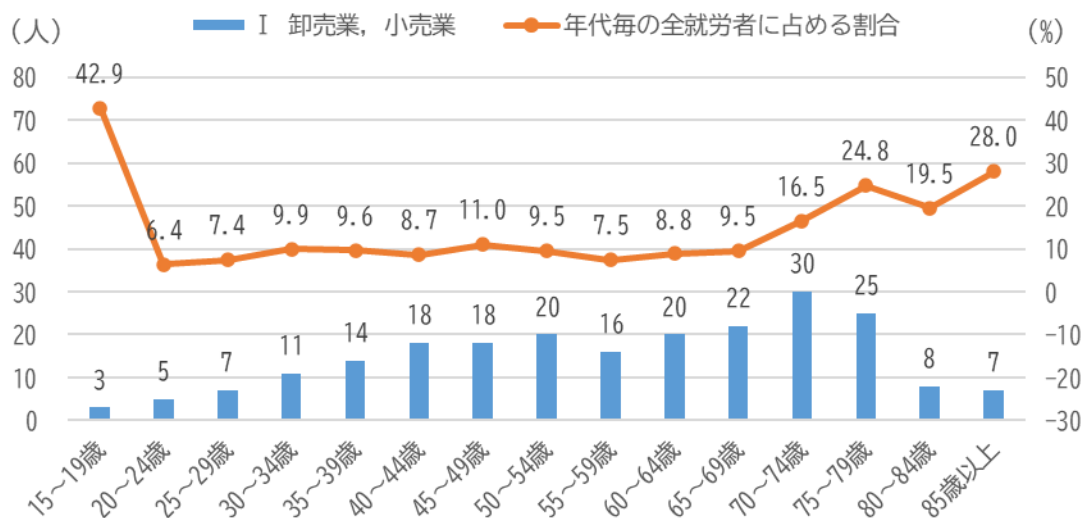


出典：経済産業省「経済センサス」

(ウ) 従業者数

南木曽町の卸売業・小売業に従事する者の年齢層は、70～74 歳が 30 人で、同年代の就労者の 16.5%となっています。また 75～79 歳では、就労者の 24.8%となっており、約 4 人に 1 人が卸売業・小売業に従事しています。

図表 29 卸売業・小売業の年代別従業者数



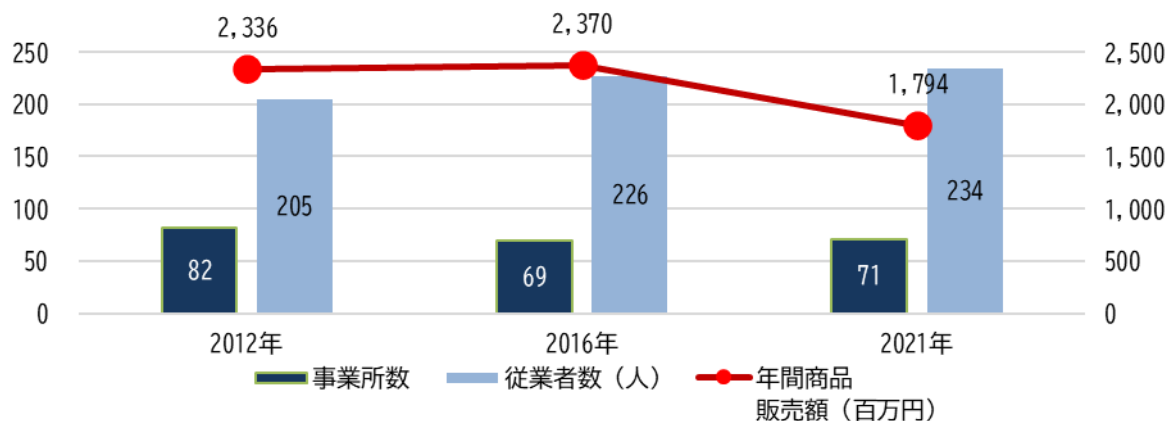
出典：令和 2 年国勢調査 就業状態等基本集計

(工) 事業所数と年間商品販売額

小売業の事業所数は、減少傾向にある一方、従業者数は増加傾向にあります。また年間商品販売額が減少していますが、2021年はコロナ禍の影響によるものと考えられます。

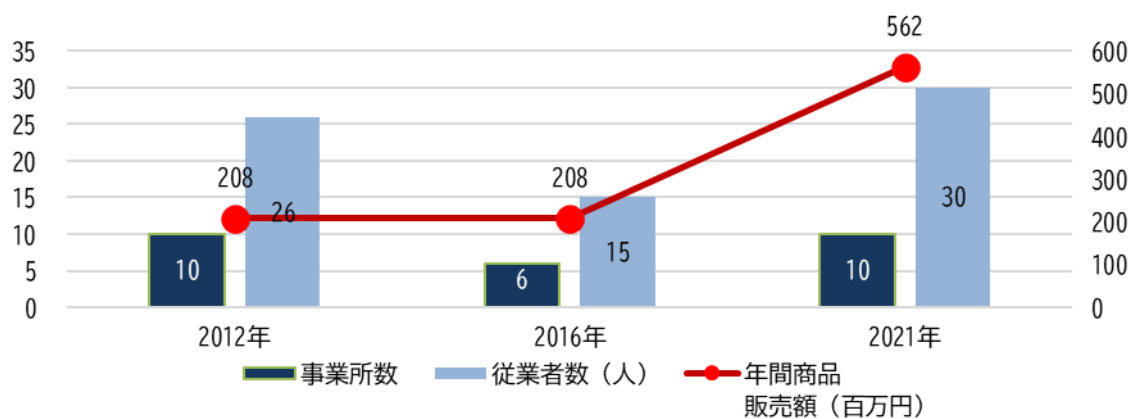
卸売業の事業所数や従業者数は、2016年に減少しましたが、2021年には2012年の水準に戻っています。一方、年間商品販売額は大きく増加傾向にあります。

図表 30 小売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移



出典：経済産業省「経済センサス」

図表 31 卸売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移

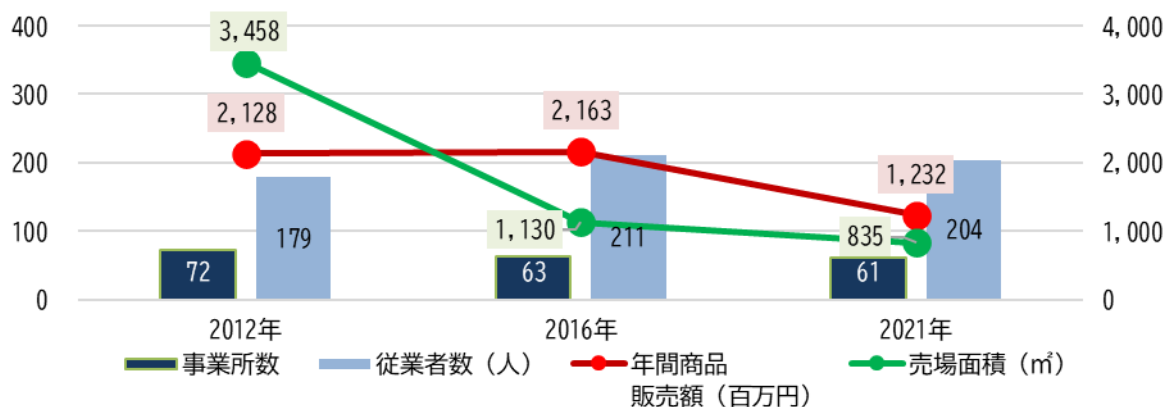


出典：経済産業省「経済センサス」

(オ) 小売業の業種別の状況

小売業全体の事業所数は2012年～2021年の間で11件減少しており、従業者数は2016年に200人台に増加しています。また、売場面積は2012年～2016年で67.3%減少しており、年間商品販売額は2016年～2021年で9.3億円余（43.0%）減少しています。

図表 32 小売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移



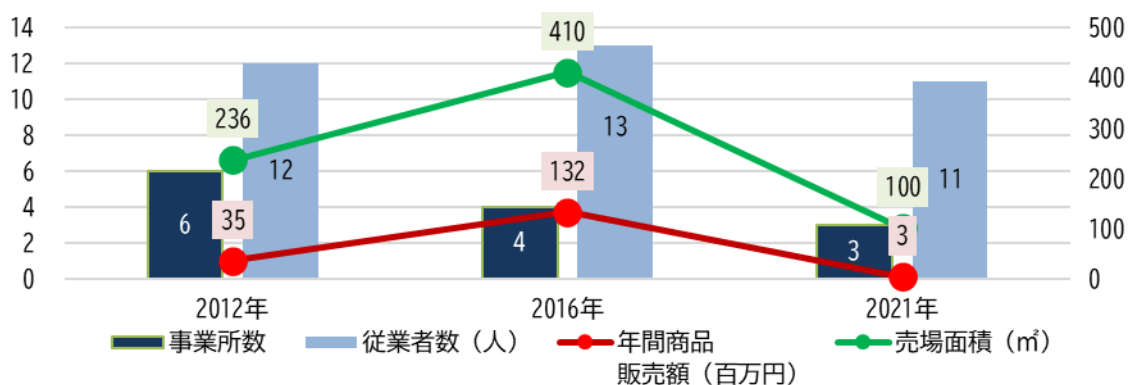
出典：経済産業省「経済センサス」

(カ) 物・衣服・身の回り品小売業の状況

事業所数は2012年～2021年の間で3件減少しており半減しています。さらに従業者数は、2016年に1人増加しましたが、2021年には2人減少しています。また、売場面積が2012年～2016年で174㎡増加しましたが、2021年には、310㎡減少し、2012年との比較では136㎡の減少となっています。

年間商品販売額は2012年～2026年で35億円から132億円へと0.97億円増加しましたが、2021年には300万円になっています。

図表 33 織物・衣服・身の回り品小売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移

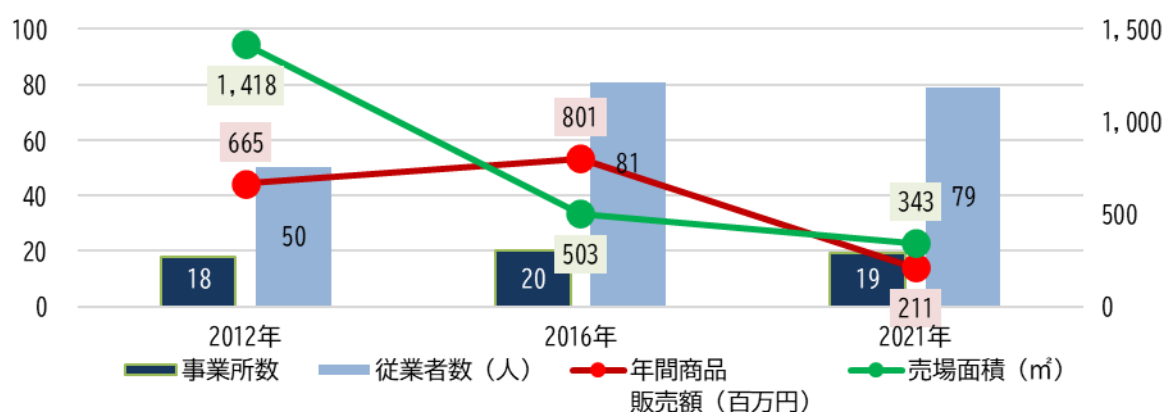


出典：経済産業省「経済センサス」

(キ) 飲食料品小売業の状況

事業所数は2012年～2021年の間で1件増加しています。従業者数は、2016年に31人増加しましたが、2021年には2人減少しています。また、売場面積が2012年～2016年で64.5%増加し、2021年には、さらに31.86%減少しています。2012年との比較では75.8%の減少となっています。年間商品販売額は2016年～2021年で1.36億万円余（17.0%）増加し8億円を超えましたが、2021年には5.9億円（17.0%）減少し、2.111億円になっています。

図表 34 飲食料品小売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移

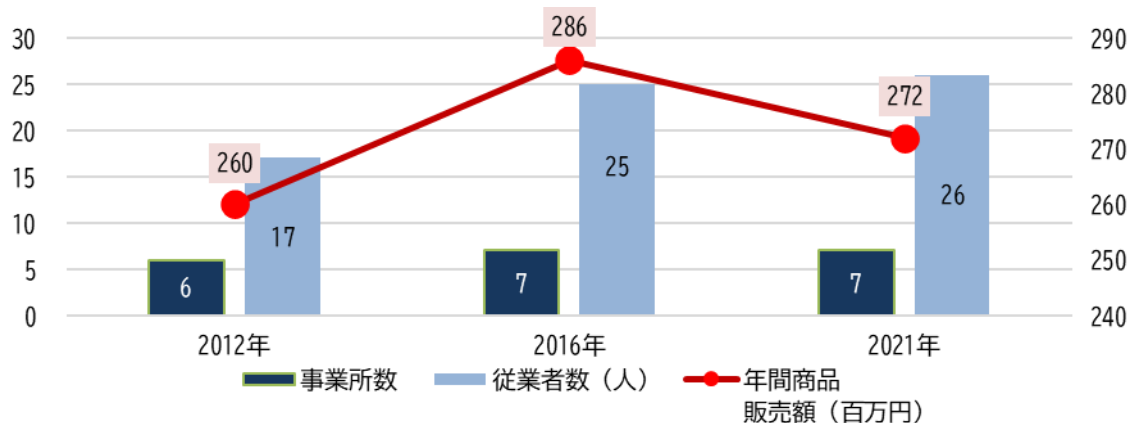


出典：経済産業省「経済センサス」

(ク) 機械器具売業の小売業の状況

事業所数は2012年～2021年の間で1件増加しています。従業者数は、2016年に8人増加し、さらに2021年には1人増加しています。年間商品販売額は2012年～2016年で2,600万円（9.1%）増加し2.86億円でしたが、2021年には1,400万円（4.9%）減少し、2.72億円になっています。

図表 35 機械器具売業の事業所数と従業者数、年間商品販売額の推移



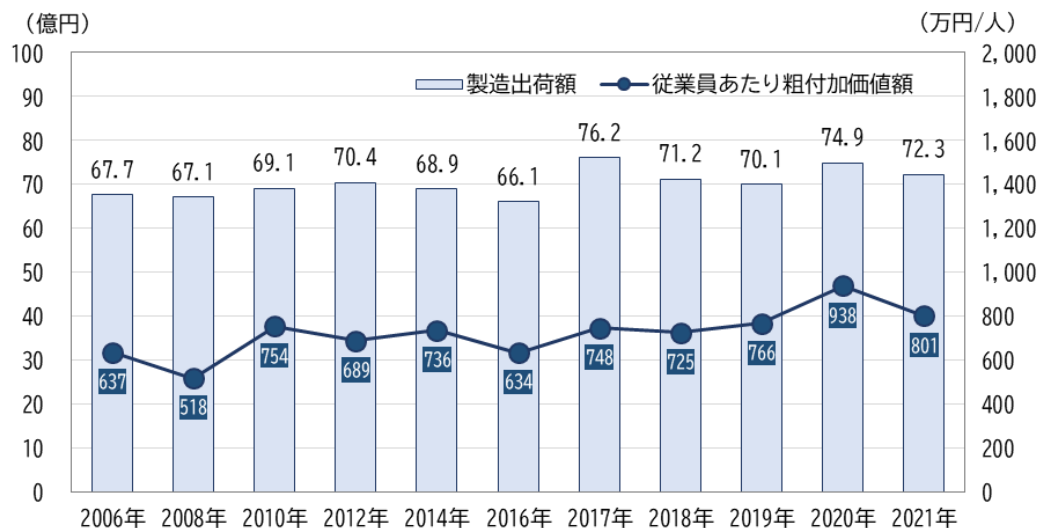
出典：経済産業省「経済センサス」

③ 製造業

(ア) 製造品出荷額等と粗付加価値の状況

南木曾町の従業者一人当たりの粗付加価値額は、2012年～2021年の10年間で112万円増加し、2021年に801万円となっています。

図表 36 製造品出荷額等と粗付加価値額の推移

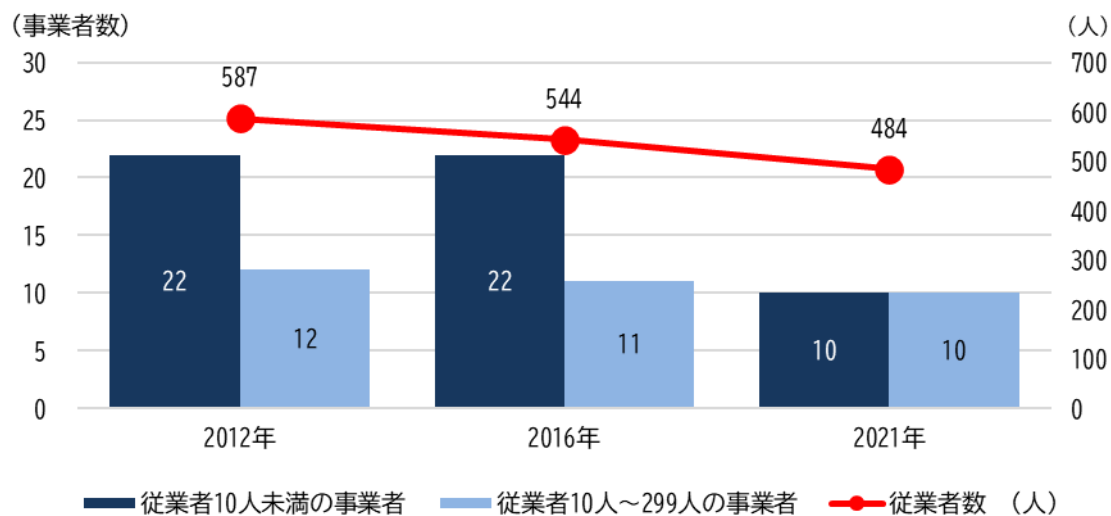


出典：工業統計調査、経済センサス活動調査

(イ) 事業者数と従業者数の状況

南木曾町の製造業の事業者数は、10人未満の事業者数が2016年との比較で半減しており、10人以上の事業者も各年で1社ずつ減少しています。従業者は2012年～2021年で103人減少しています。

図表 37 製造業の従業者数別の事業者数と従業者数の推移

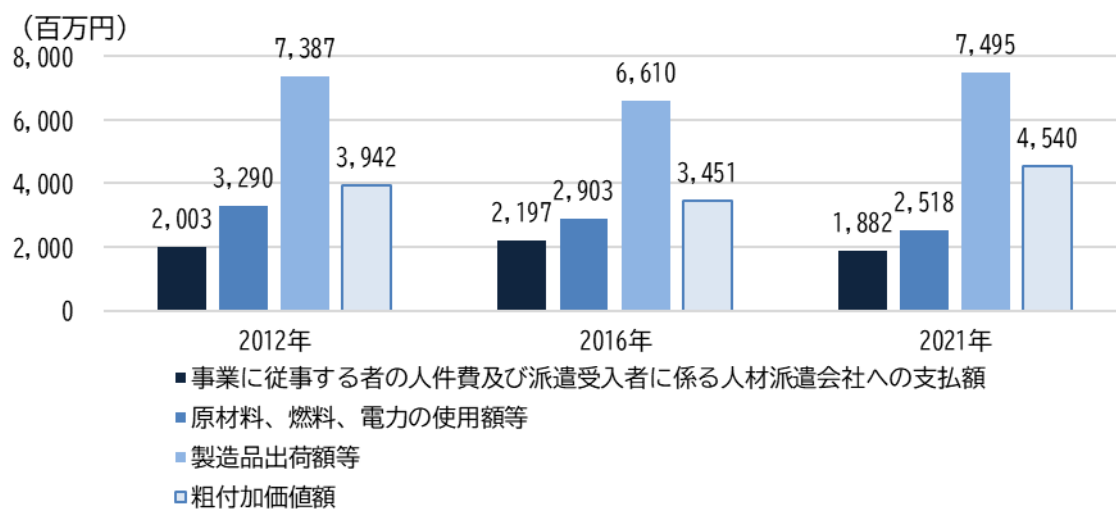


出典：経済センサス - 活動調査 製造業（地域別統計表データ）

(ウ) 人件費、原材料費、製造品出荷額および付加価値額の状況

人件費や原材料費が減少傾向にあり、製造品出荷額等が 10.08 億円増加したことから、粗付加価値額は 2012 年～2021 年で 5.98 億円増加しています。

図表 38 人件費、原材料費、製造品出荷額および付加価値額



出典：経済センサス - 活動調査 製造業（地域別統計表データ）

④ 観光

(ア) 観光入込客数の推移

「妻籠宿」は2009年までは60万人の入込客数がありましたが、2020年から3年間のコロナ禍の影響を除けばおよそ半分の30万人まで減少しています。これは観光事業者の高齢化や後継者不足による観光事業者数の減少などが影響として考えられます。

「南木曽温泉郷」は2008年の約6.5万人から減少傾向にあり、2017年には約3.8万人まで減少しましたが、2018年には約11.2万人、2019年には約18.5万人へと4倍程度増加しています。

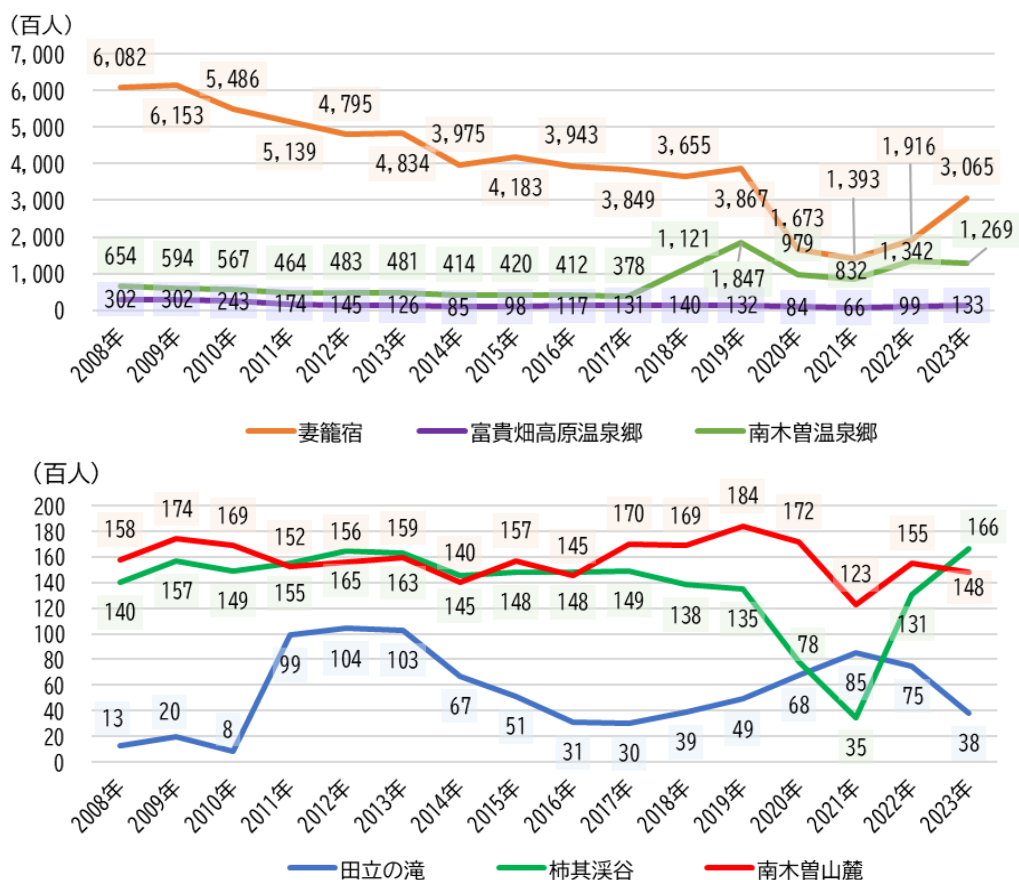
「富貴畑高原温泉郷」は、2009年まで3万人の入込客数がありましたが、2014年と2015年には1万人を割り込んでいます。その後コロナ禍の影響を除けば、2023年には1.3万人に増加しています。

「田立の滝」は大雨による散策ルート通行止めが繰り返された経緯もあり、ルートの整備状況と入込客数の相関関係があるとみられます。

「柿其溪谷」は、コロナ禍を除き、1万人を超える入込客数を維持してきており2023年には1.66万人になりました。

「南木曽山麓」は1.5万人程度の入込客数で推移してきています。主にキャンプ場の利用者数となり、コロナ禍でも1.23万人の入込客数となっています。

図表 39 観光地別入込客数



出典：長野県観光地利用者統計調査

(イ) 観光消費額

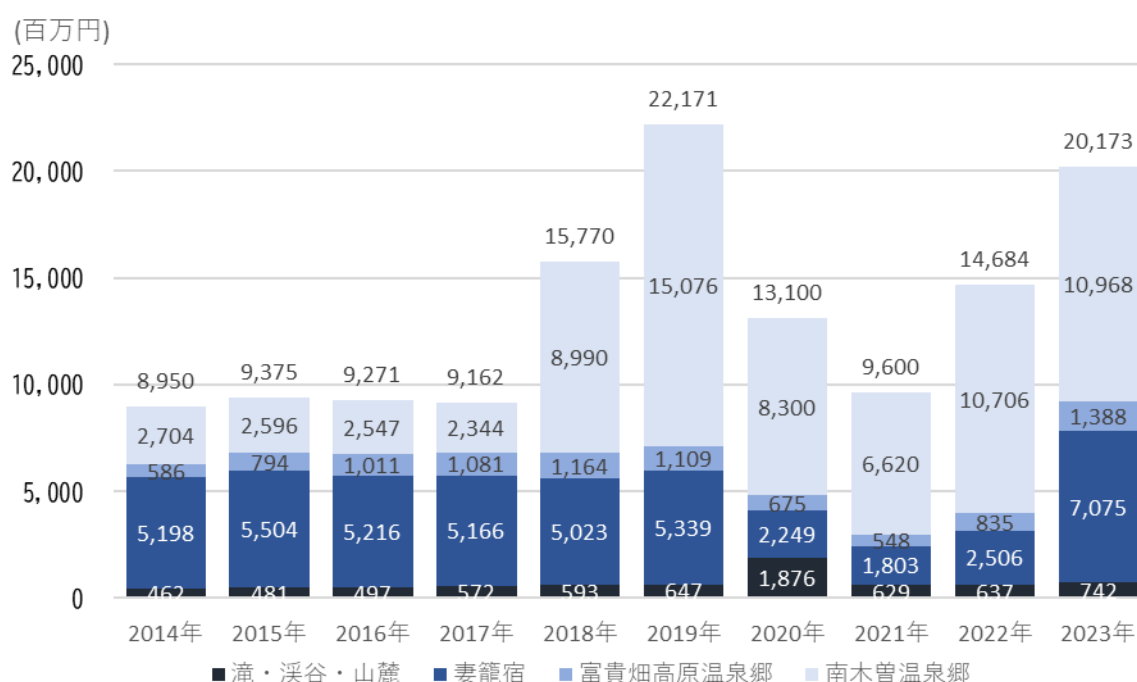
2020 年は田立地区に新たな体験型宿泊施設が開業した影響もあり、滝・溪谷・山麓は 18 億 7 千 6 百万円に増加しています。

妻籠宿は 2019 年までは 50 億を超える消費額がありましたが、コロナ禍で 18 億円台にまで下がりました。その後回復し 2023 年にはインバウンドの影響もあり 70.8 億円になっています。

富貴畑温泉郷はコロナ禍を除けば 10.0 億円前後の消費額となっており、2023 年はインバウンドの影響もあり 13.9 億円になっています。

南木曽温泉郷は 2018 年以降、コロナ禍を除けば、消費額が 100.0 億円前後で推移しています。

図表 40 観光消費額



※滝・溪谷・山麓は「田立の滝」「柿其溪谷」「南木曽山麓」を合わせた観光消費額

出典：長野県観光地利用者統計調査

(ウ) 一人当たりの観光消費額

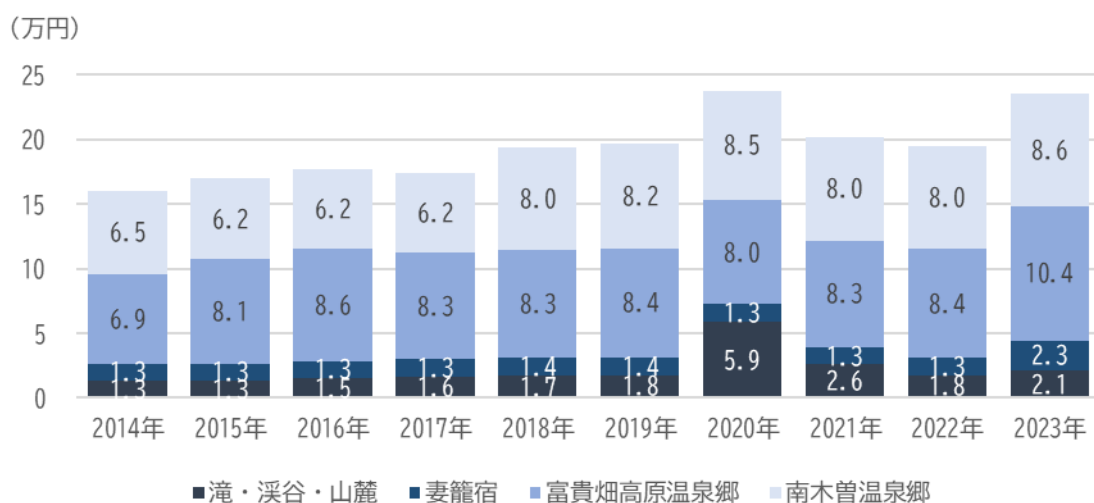
2020 年は田立地区に新たな体験型宿泊施設が開業した影響もあり、一人当たり 5.9 万円に増加しています。

妻籠宿は 1.3 万円から 1.4 万円で推移しており、2023 年には 2.3 万円になっています。

富貴畑温泉郷は 8 万円前後の消費額となっており、2023 年は 10.4 万円になっています。

南木曽温泉郷は 2018 年以降、消費額が 8 万円前後で推移しています。

図表 41 一人当たりの観光消費額



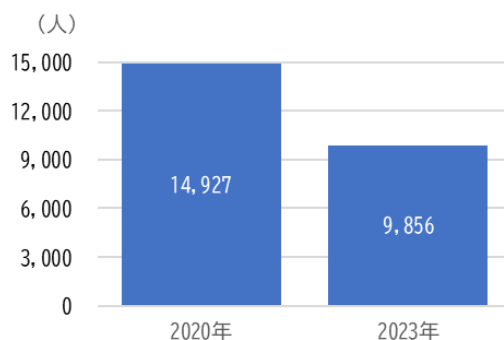
※滝・溪谷・山麓は「田立の滝」「柿其溪谷」「南木曽山麓」を合わせた一人当たりの観光消費額

出典：長野県観光地利用者統計調査

(エ) 外国人宿泊者数(町全体)

外国人宿泊者数は、2023 年は 2020 年の 66%まで減少しています。インバウンドによる入込数は増加していますが、宿泊者数は減っており、宿泊につながっていないことがわかります。

図表 42 外国人宿泊者数



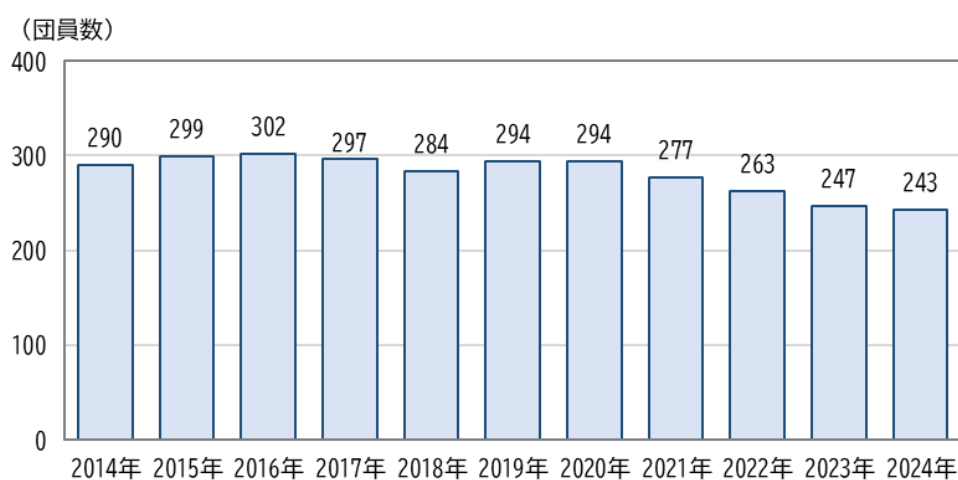
出典：長野県観光地利用者統計調査

第4章 コミュニティ・社会基盤

1. 地域防災

消防団員数は2020年ごろまで300人近くを維持していましたが、ここ数年は減少しています。

図表 43 消防団員数の推移

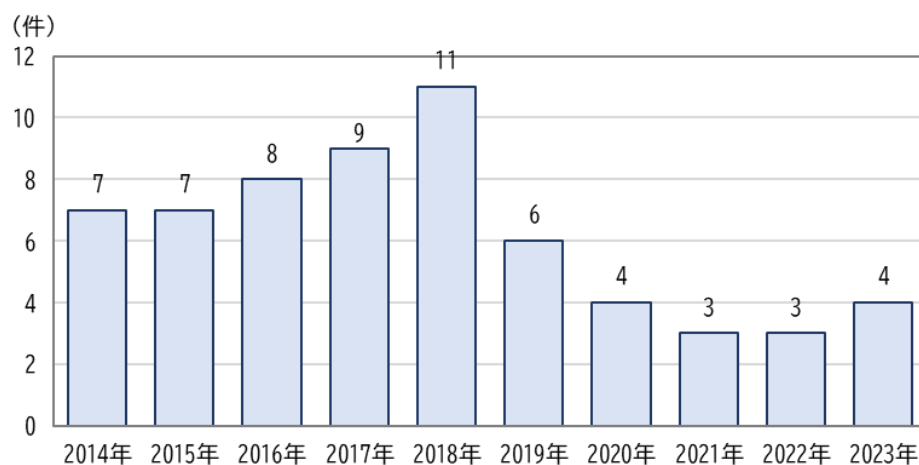


出典：南木曽町

2. 交通安全

交通事故は2018年まで増加傾向にありましたが、ここ数年は年間5件以下に抑えることができています。

図表 44 交通事故発生件数の推移



出典：南木曽町

3. 交通

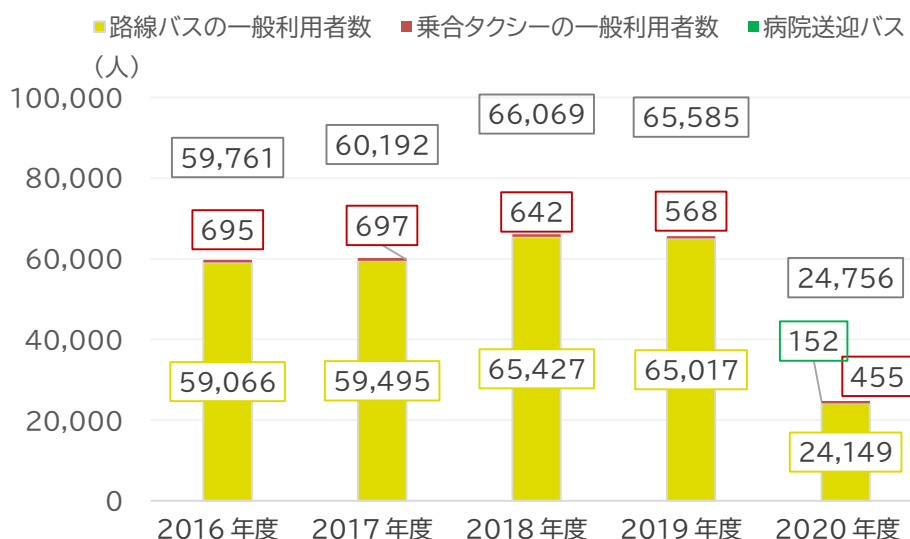
バス交通の利用者数のほとんどは路線バスの利用者が占めています。全利用者数は 2018 年度まで増加傾向でしたが、2019 年度に微減、2020 年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2019 年の 65,585 人から 24,756 人と 62.3%も減少しています。

路線バスの利用者数をみると、2018 年度まで増加傾向、2019 年度に微減、2016 年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和元年度の 65,017 人から 40,868 人(62.9%) 減少し、24,149 人となっています。

乗合タクシーの利用者数は毎年度全利用者数の 1.0%前後と非常に少なく、600 人台後半で推移してきましたが、2019 年度の 568 人から 113 人(19.9%) 減少し、2020 年度には 455 人となっています。

病院送迎バスは 2020 年 10 月から運行を開始しており、半年間で 152 人の利用がありました。

図表 45 バス交通全体の利用者数の推移

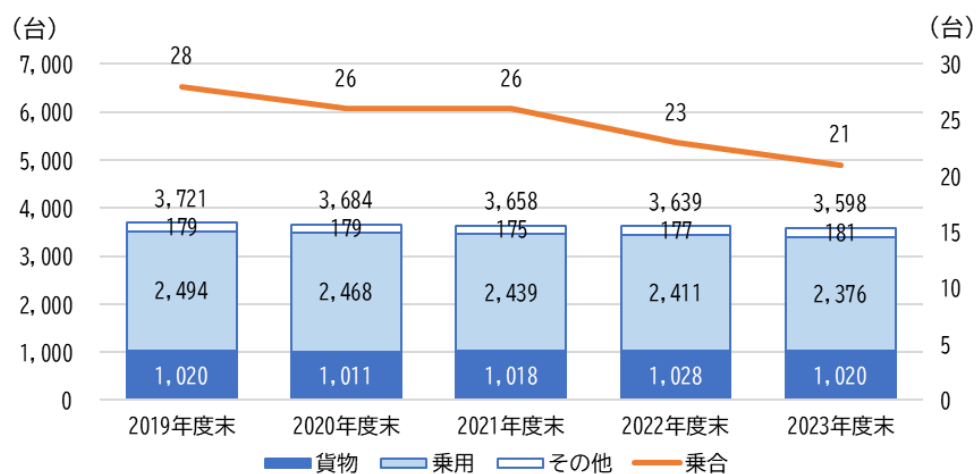


出典：南木曾町

4.自動車等の保有状況

2019年から2023年の5年間で、自動車の登録台数は総数で123台（3.3%）減少しています。乗合自動車は7台（25%）減少しています。

図表 46 南木曽町内の自動車登録台数の推移



出典：北陸信越運輸局長野運輸支局 松本自動車検査登録事務所

第5章 子育て・教育

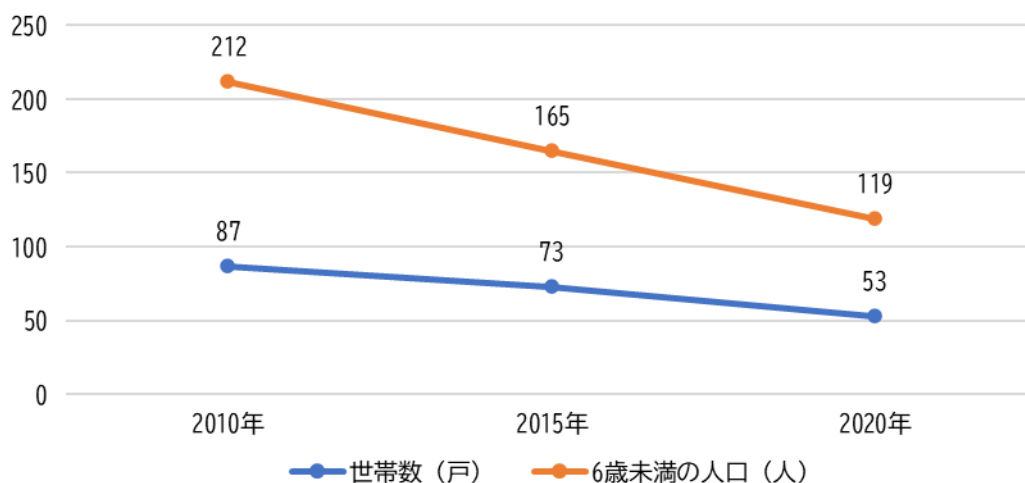
1. 子どもの状況

(1) 子どもの数の推移

① 6歳未満の子と同居世帯の状況

6歳未満の人口及び6歳未満のいる世帯数は減少しています。

図表 47 6歳未満人口と6歳未満の子と同居世帯の推移

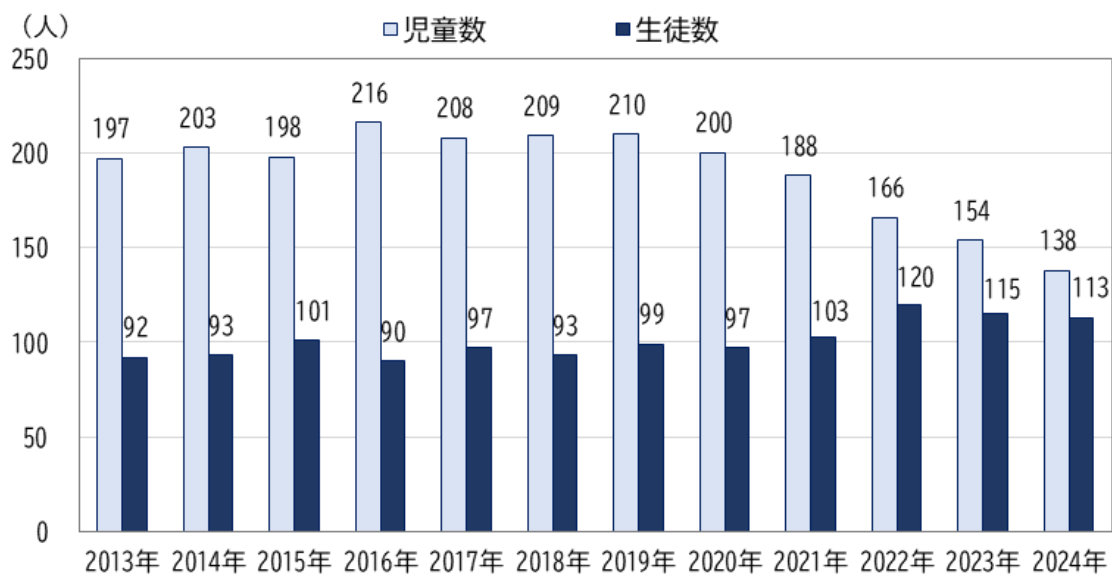


出典：国勢調査

② 児童数と生徒数の状況

小中学校児童・生徒数では、小学児童数の減少が続いています。

図表 48 小中学校の児童・生徒数の推移

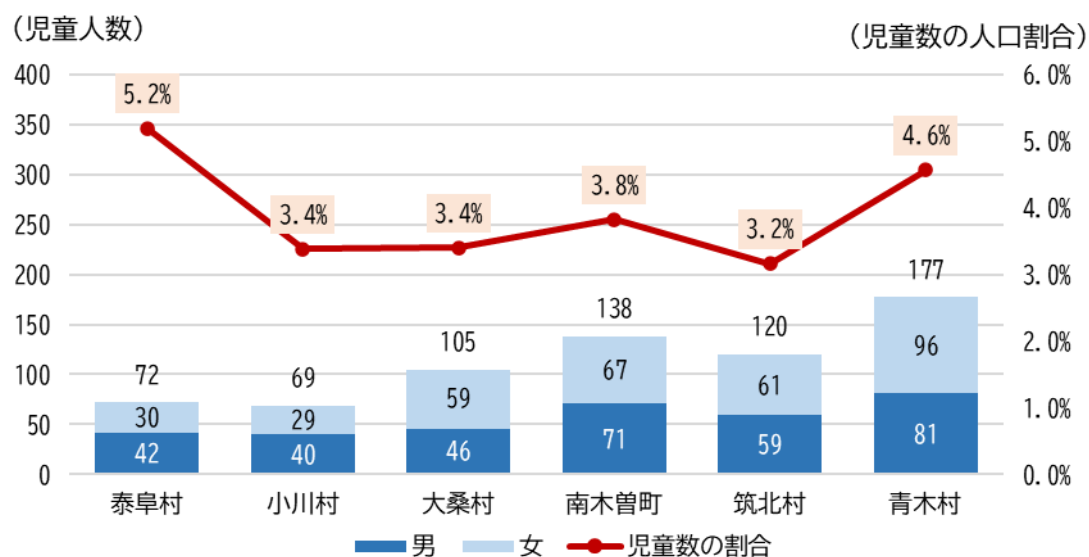


出典：2021～2024年「学校基本調査」（文部科学省）2013～2020年「南木曽町の統計資料」

③ 類似町村と児童数の比較

類似町村との比較では、人口に占める児童数の割合は南木曽町が3.8%で、近いのは大桑村、小川村の3.4%となっています。最も高い割合は、泰阜村で5.2%です。

図表 49 男女別学年別の小学校児童数(長野県内類似町村比較)

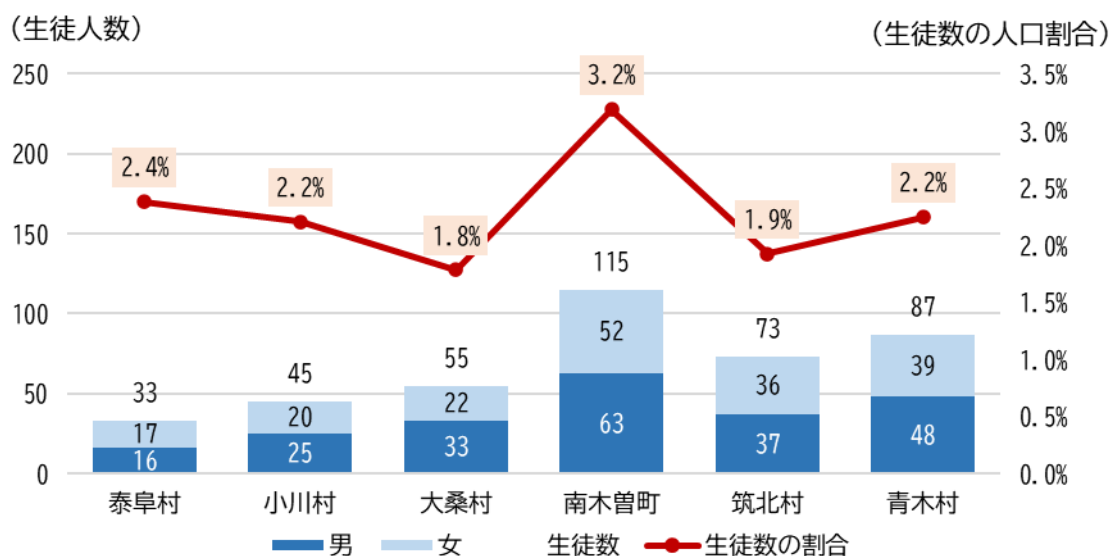


出典：文部科学省「学校基本調査」2023 年

④ 類似町村と生徒数の比較

類似町村との比較では、人口に占める生徒数の割合は南木曽町が3.2%で最も高い割合になっています。次いで、泰阜村が2.4%となっています。

図表 50 男女別学年別の中学校生徒数(長野県内模類似町村比較)



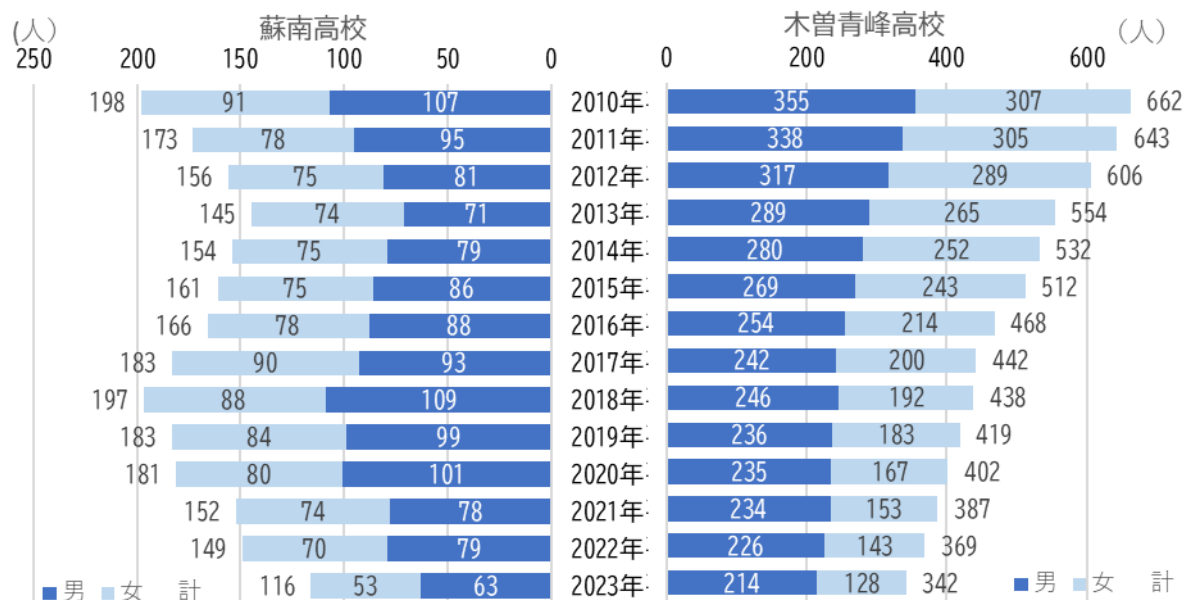
出典：文部科学省「学校基本調査」2023 年

(2) 蘇南高校への進学状況

木曽青峰高校への進学者数が毎年 22.9 人平均で減少しているのに対して、蘇南高校は 2018 年に 2010 年水準まで進学者が増加するなど、進学者数に変化がみられます。

2023 年は、2010 年と比較すると、蘇南高校で 82 人減少、木曽青峰高校では 320 人減少となっています。

図表 51 木曽郡内の高校の生徒数の推移



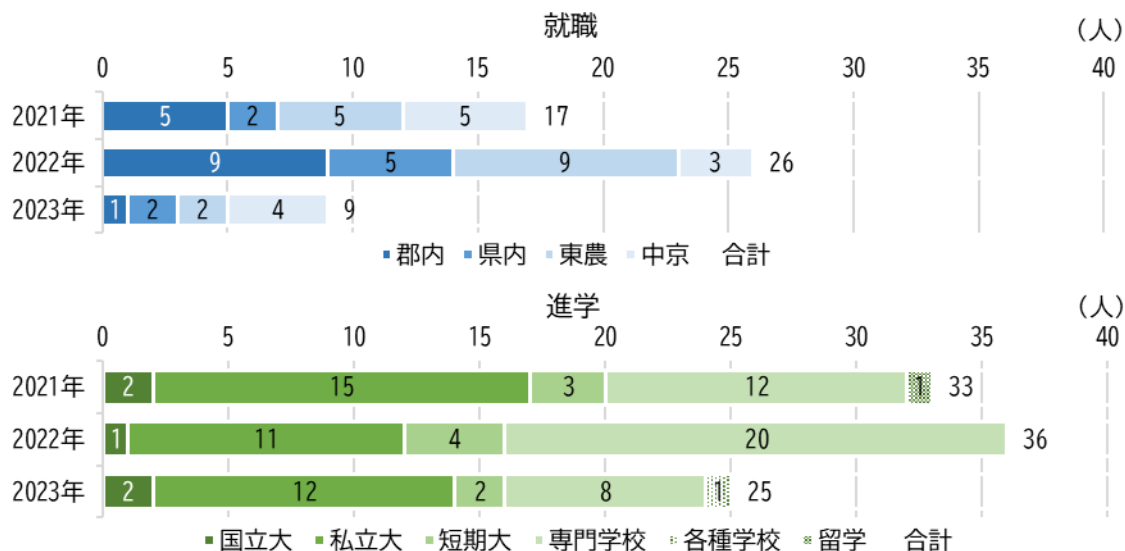
出典：長野県教育委員会

(3) 蘇南高校卒業後の進路

蘇南高校の卒業生の進路は、就職では郡内と東濃、中京方面が半々になっています。

進学は、半数から7割程度となっており、大学は、進学する者の半数から3分の1程度となっています。

図表 52 蘇南高校卒業者の進路



出典：蘇南高校

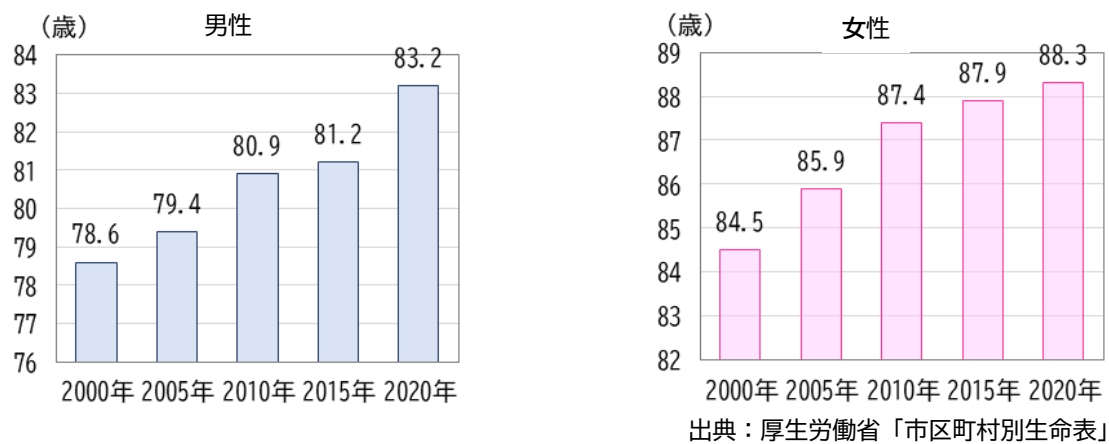
第6章 健康・医療・福祉

1. 健康づくりの状況

(1) 平均寿命

平均寿命は、2000 年から 2020 年にかけて男性が 4.6 歳、女性が 3.8 歳伸びています。

図表 53 男女別平均寿命の推移



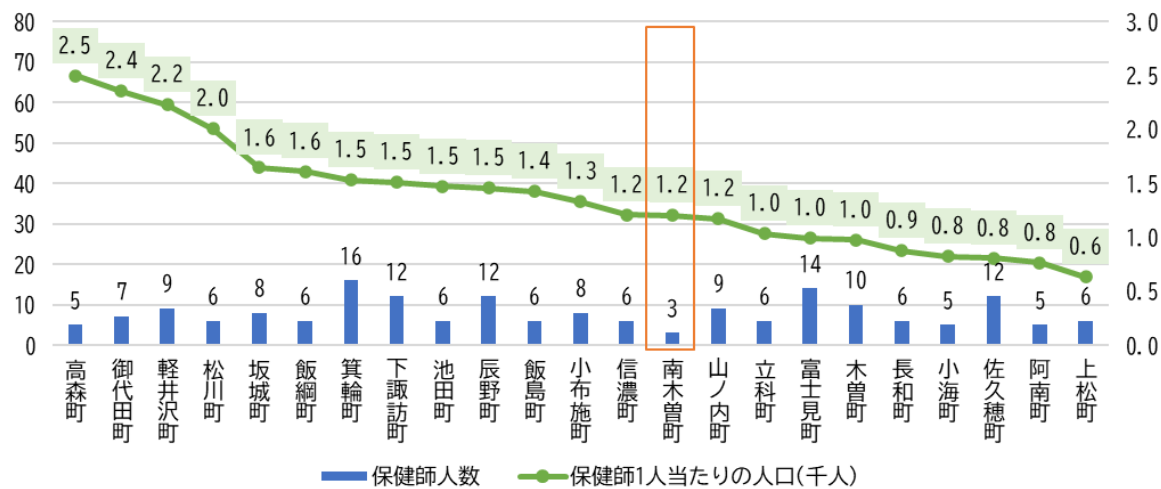
(2) 保健師一人当たりの人口

保健師一人当たりの人口を長野県内の町と比較した場合、南木曾町は人口 1,200 人に対して 1 人配置していることになりました。

保健師の配置が多い町は、上松町が人口 600 人に対して保健師 1 人の配置となっています。保健師の人数が最も多いのは、箕輪町で 16 人、最も少ないのは、南木曾町で 3 人となっています。

図表 54 長野県内の町における保健師の配置状況

(長野県内の町の比較)



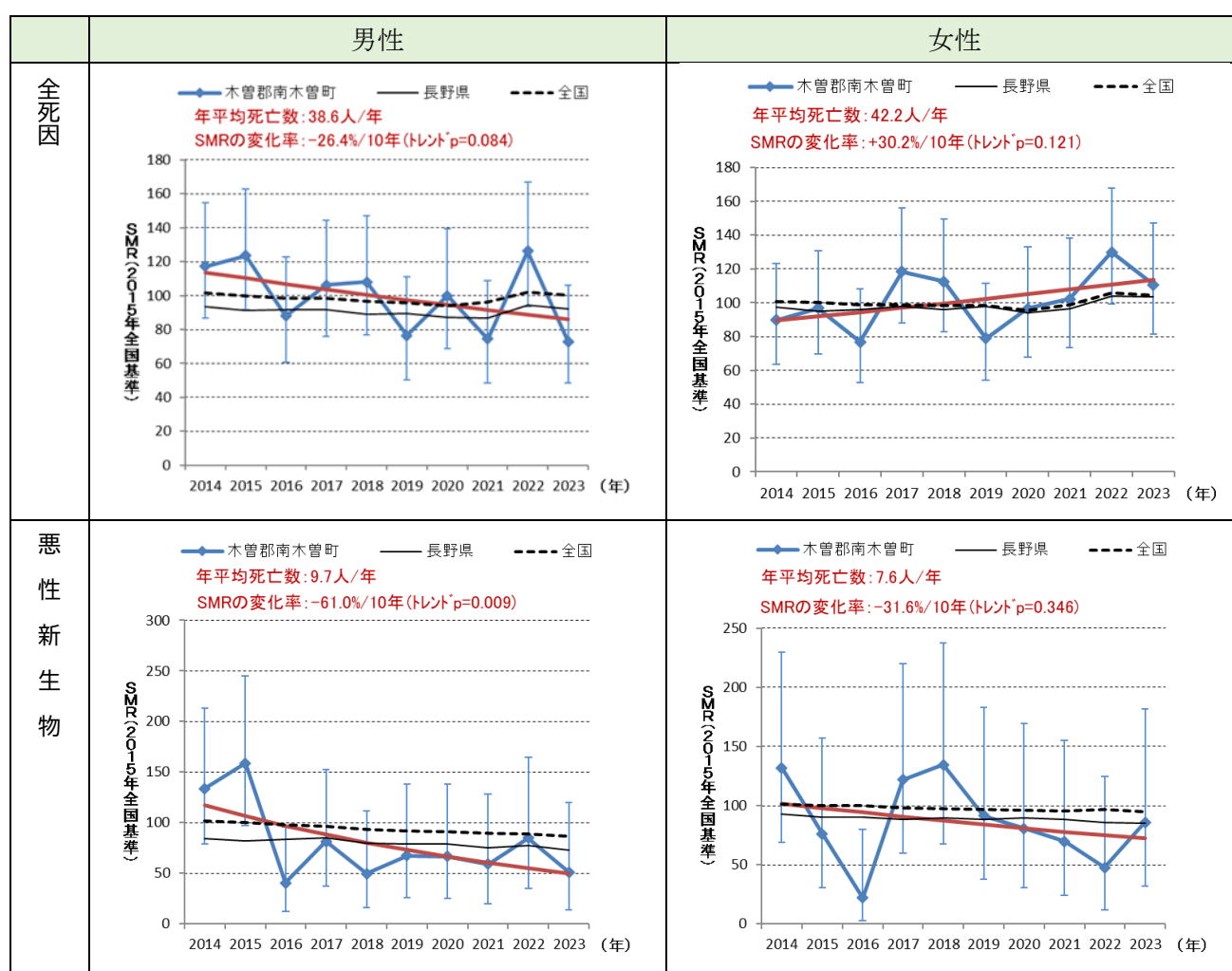
出典：厚生労働省 保健師活動領域調査 令和 5 年度

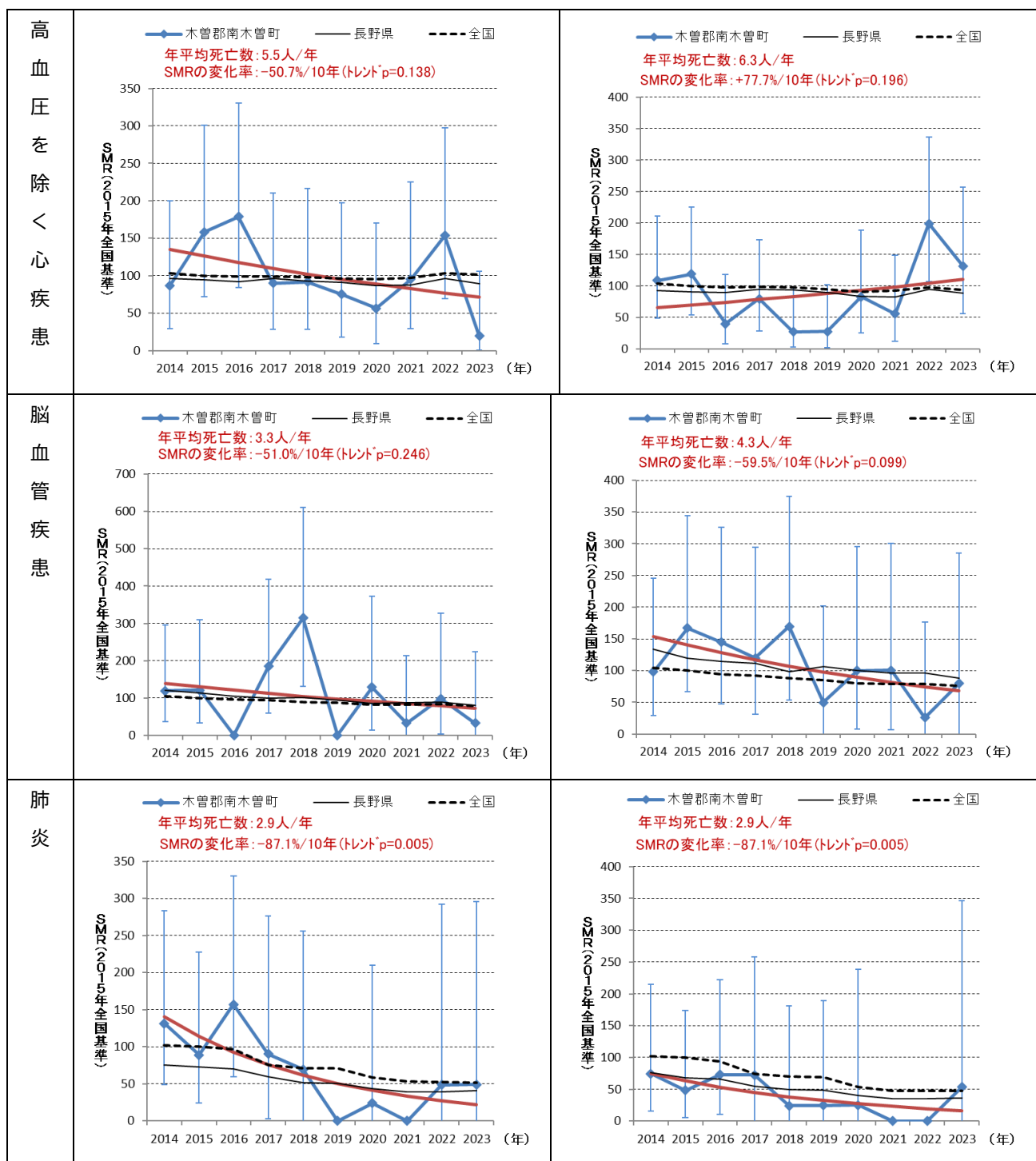
(3) 死亡者数および死因の推移

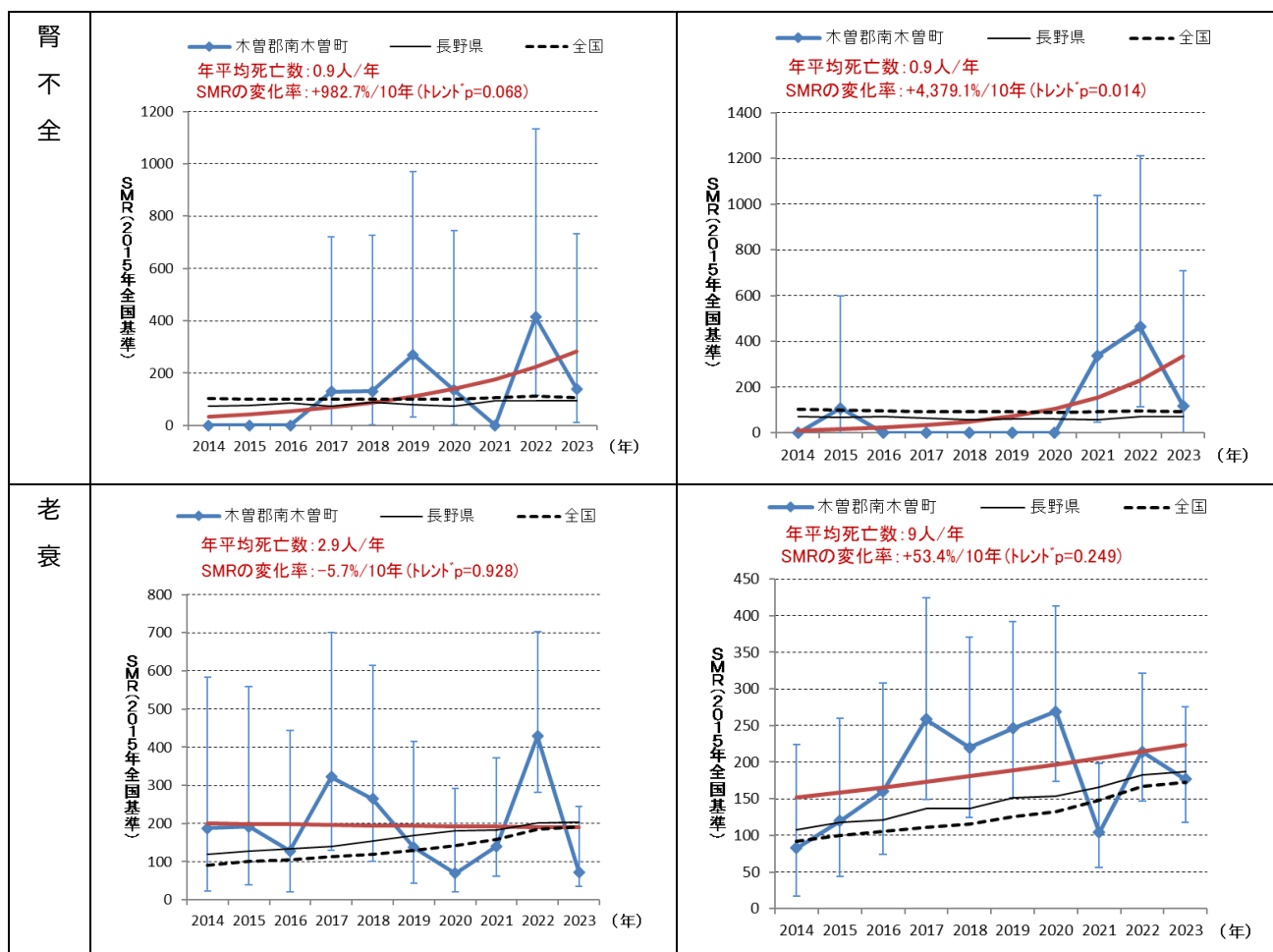
生活習慣病として位置付けられる主な疾患は、高血圧症、脂質異常症（高脂血症、高尿酸血症など）、心筋梗塞、狭心症などの心疾患、脳梗塞、くも膜下出血などの脳血管疾患、糖尿病（成人型）、アルコール性肝疾患、がん（悪性新生物）、歯周病、慢性腎臓病、肝硬変などがあります。

全死因では、全国や長野県との比較で、女性は増加傾向がみられます。また、死因別での比較多いものは、2022年の腎不全によるものがあげられます。一方、肺炎は男女ともに全国や長野県との比較で低めに推移しています。

図表 55 全国を100とした場合の南木曽町の死因







出典：国立保健医療科学院ホームページ (<https://www.niph.go.jp>)

2. 医療の状況

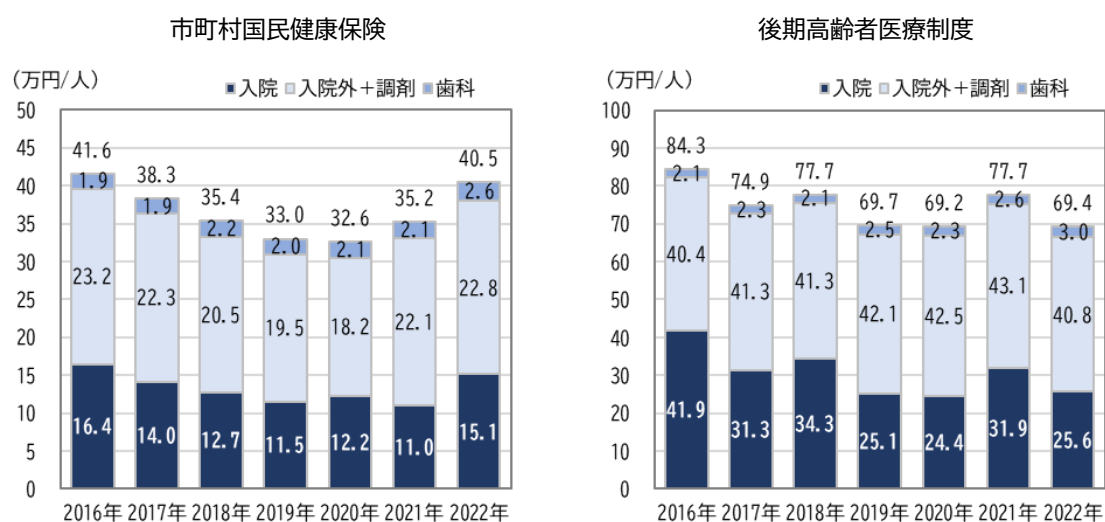
(1) 医療費

国民健康保険の一人当たりの費用は、2020年に32.6万円/人にまで下がりましたが、2022年には、40.5万円/人までに増加しました。

後期高齢者医療制度の費用は、2016年の84.3万円/年から減少傾向がみられ、2022年には69.4万円/人となっています。

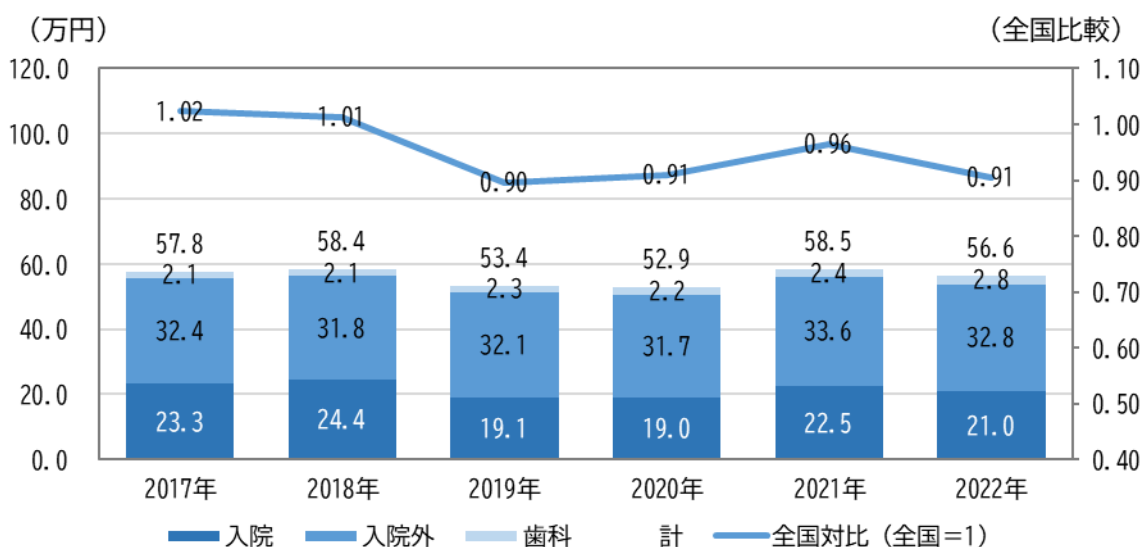
全国との比較では、全国水準を1としたとき、2017年に南木曽町は1.02でしたが、2019年には0.90、2022年は0.91と全国水準を下回っています。

図表 56 一人当たりの実績医療費の推移



出典：厚生労働省 医療費の地域差分析

図表 57 一人当たり市町村国民健康保険料給付額の推移



出典：厚生労働省「医療費の地域差分析」

3. 高齢者福祉の状況

(1) 高齢化の状況

① 後期高齢者人口の推移と推計

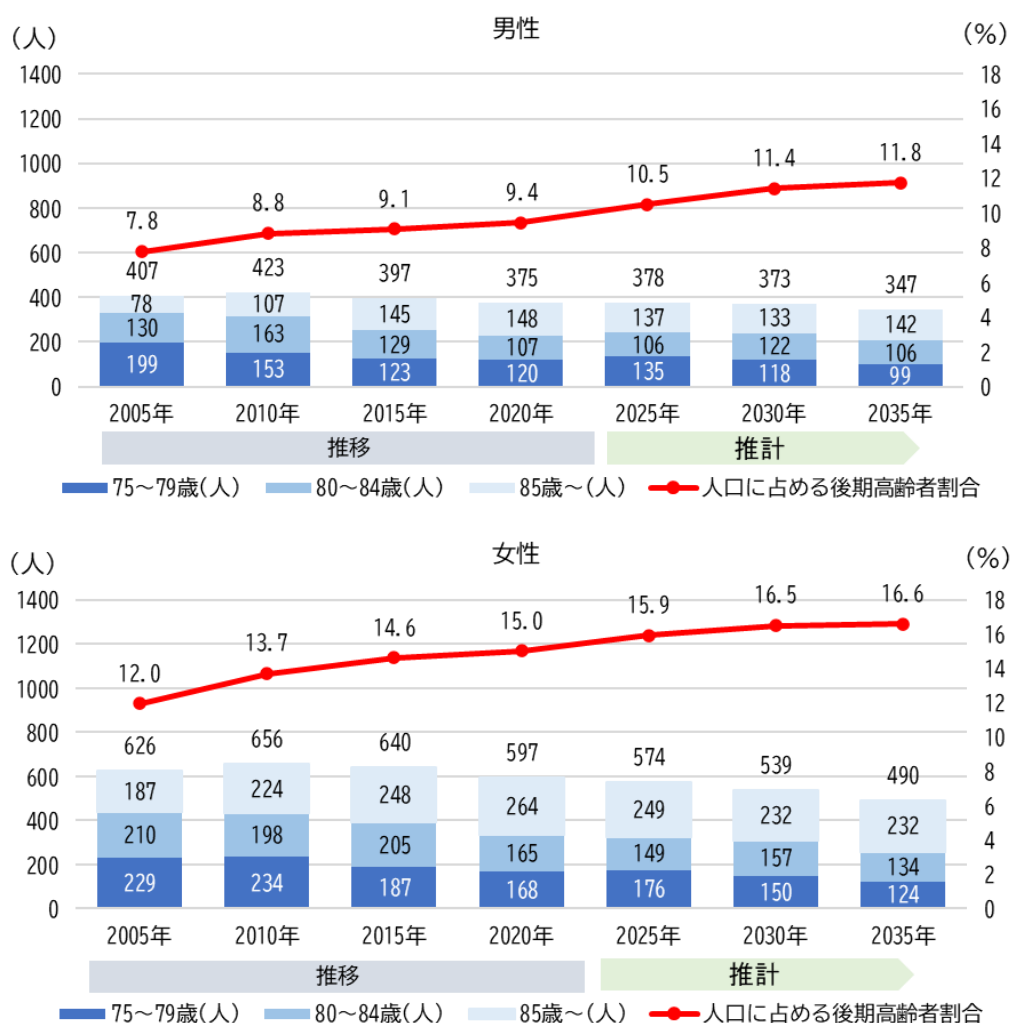
後期高齢者人口の推移は、男性では2005年から2020年で32人減少しました。85歳以上の人口は、2005年に78人でしたが、2020年には148人と70人増加しました。

2035年までの推計値では、後期高齢者人口は、28人減少しますが、人口に占める割合は11.8%に増加すると予測されています。

女性では、2005年から2020年で29人減少しました。85歳以上の人口は、2005年に187人でしたが、2020年には264人と77人増加しました。

2035年までの推計値では、後期高齢者人口は、107人減少しますが、人口に占める割合は16.6%になると予測されています。

図表 58 男女別人口に占める後期高齢者の割合と5歳毎の人口の推移と推計



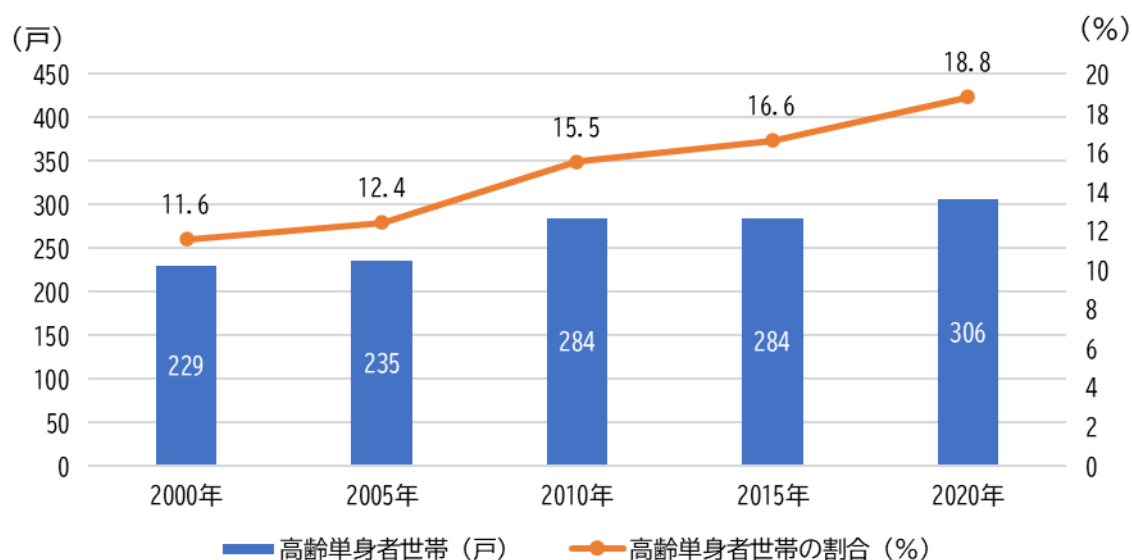
出典：国勢調査

国立社会保障・人口問題研究所（市区町村別男女5歳階級別データ）

② 高齢者単独世帯の推移

高齢者単独世帯の推移は、2000年から2020年で77世帯増加し、全世帯に占める割合は、2000年に11.6%でしたが、2020年には18.8%に増加しています。

図表 59 高齢者単独世帯の戸数と全世帯数に占める割合

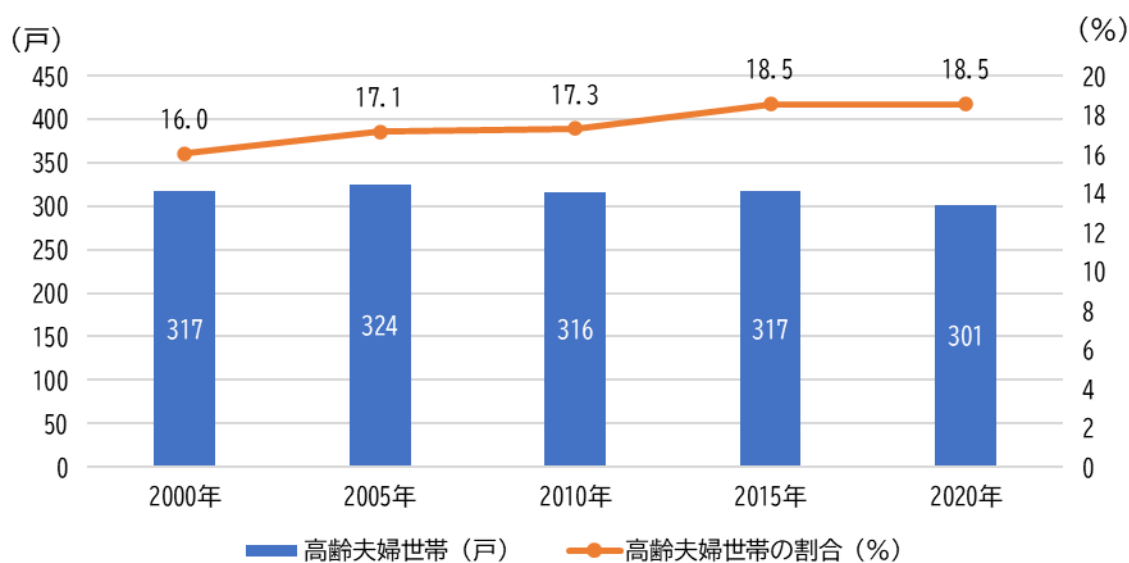


出典：国勢調査

③ 高齢者夫婦世帯の推移

高齢者夫婦世帯の推移は、2000年から2020年で16世帯減少しています。全世帯に占める割合は、2000年に16.0%でしたが、2020年には18.5%に増加しています。

図表 60 高齢者夫婦世帯の戸数と全世帯数に占める割合



出典：国勢調査

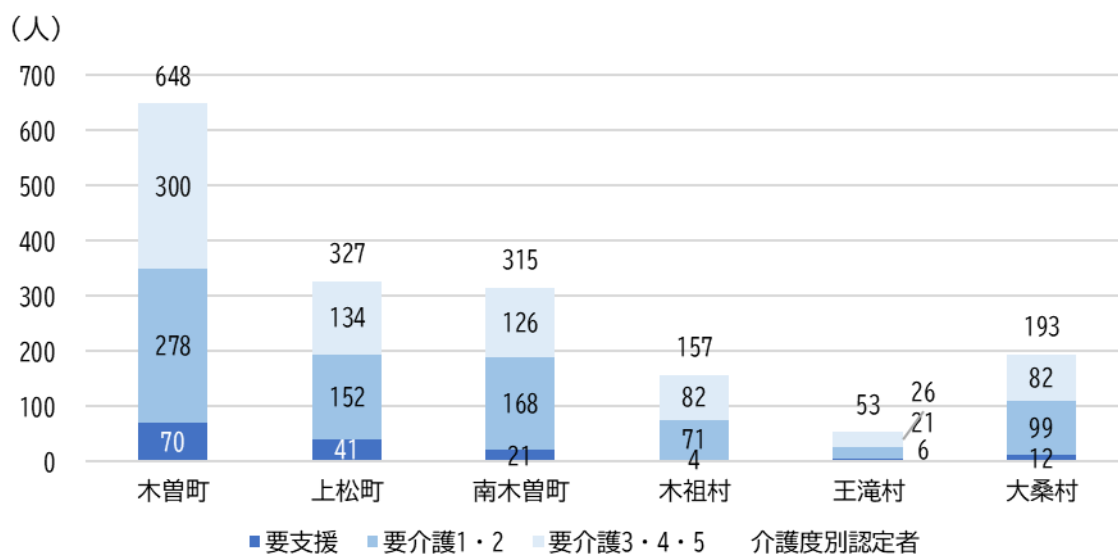
(2) 介護保険の状況

① 要支援・要介護認定者数・認定率

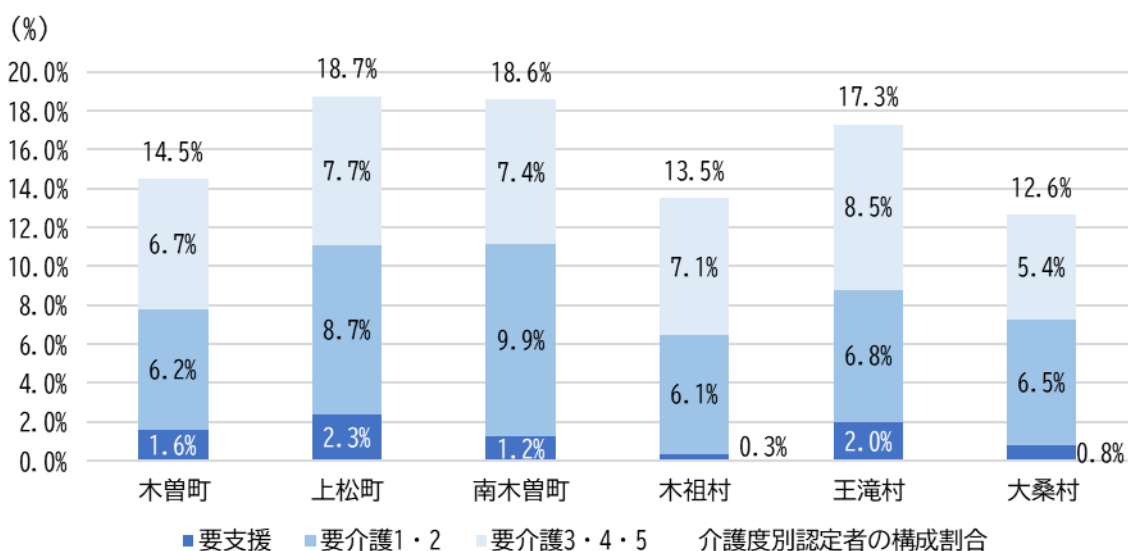
2022 年 9 月時点での南木曽町の要介護認定者数は、要支援が 21 人、要介護度 1・2 が 168 人、要介護度 3・4・5 は 126 人で、315 人が認定を受けています。

認定率でみると、18.6%と上松町の 18.7%に次いで高い値となっています。木曽郡内他町村との比較では、要介護度 1・2 の認定割合が 9.9%と高くなっています。

図表 61 木曽広域連合構成市町村の認定者数(2022 年9月)



図表 62 木曽広域連合構成市町村の認定率(2022 年9月)



出典：木曽広域連合第 9 期介護保険事業計画

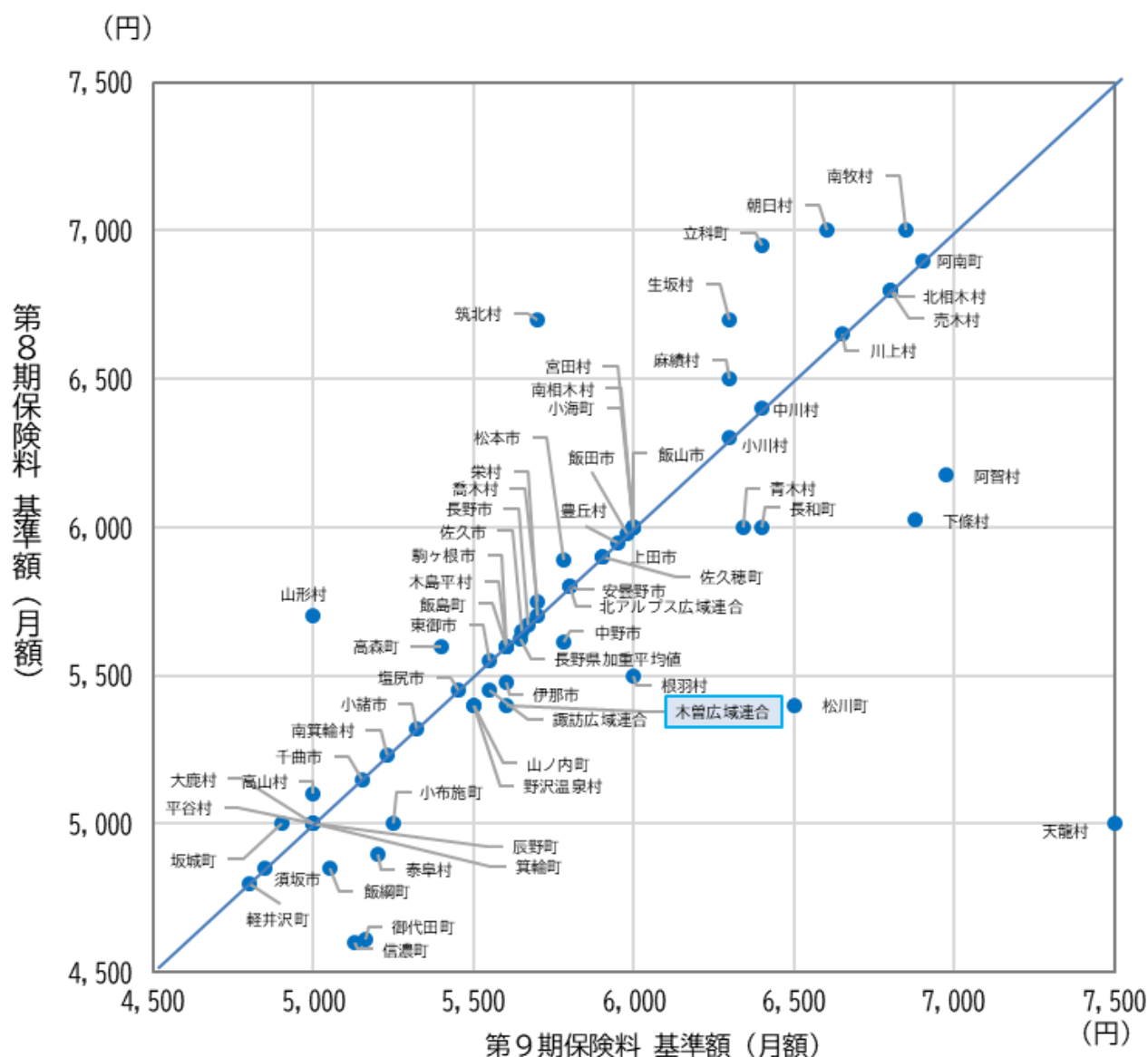
② 第1号被保険者1人あたりの介護保険料

第8期（2021～2023 年）介護保険事業計画期間と、第9期（2024～2026 年）介護保険事業計画期間の月額保険料を比較すると、南木曽町の保険者である木曽広域連合の保険料が値上がりしていることが分かります。

他の保険者との比較では、第8期の保険料では、塩尻市と同レベルでした。第9期の保険料は、東御市と同レベルになります。

保険者が広域連合である第9期の保険料を比較すると、木曽広域連合は最も安い保険料となっています。

図表 63 第8期と第9期の介護保険料基準月額比較



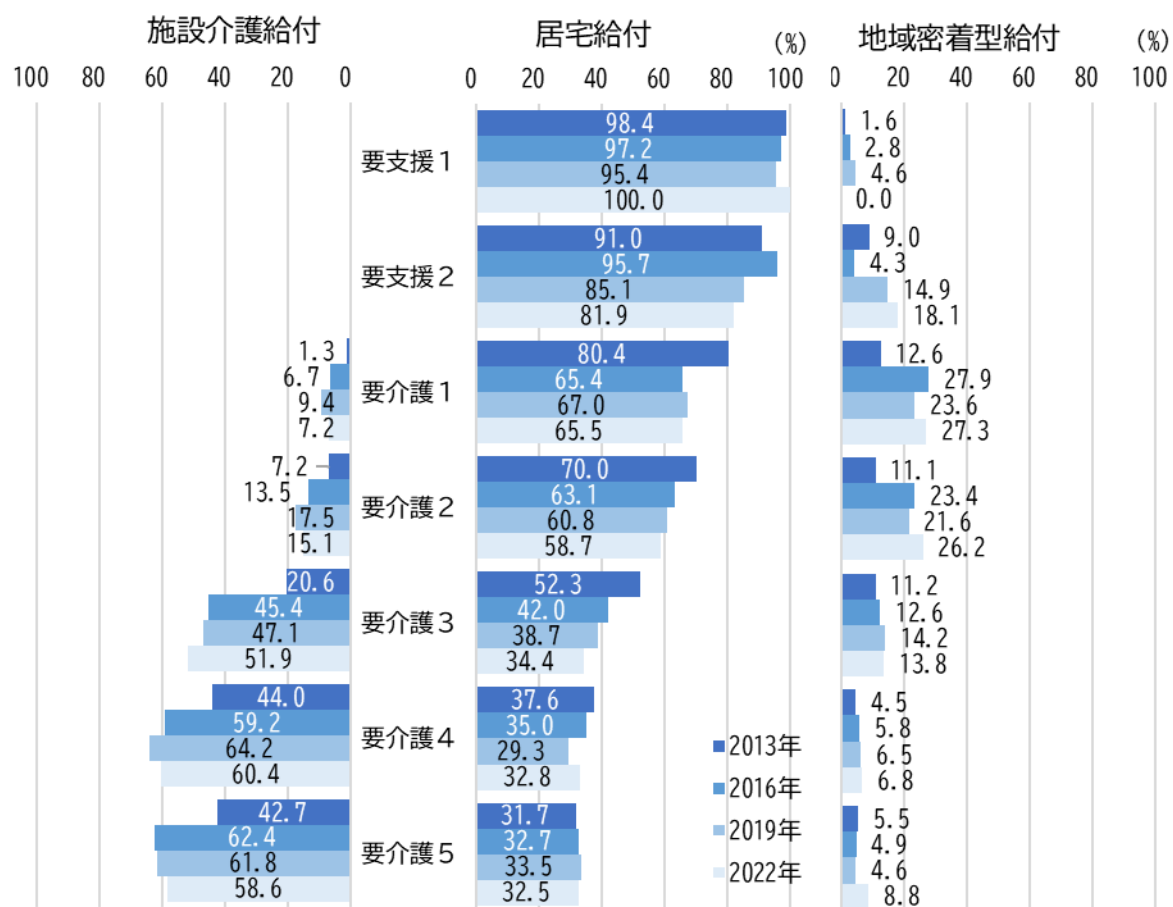
③ 介護給付費の推移

木曽広域連合における給付の推移をみると、施設介護給付は 2016 年に大きく増加しています。

居宅給付は、要支援 1 と要介護度 5 以外は減少傾向になっています。

地域密着型サービスは、全ての認定区分で増加傾向になっています。

図表 64 木曽広域連合における介護給付費総額に占める各サービスの給付費割合
(各介護保険事業計画期間の中間年度比較)



出典；厚労省 介護保険事業状況報告

④ サービス利用者一人当たりの介護給付費

南木曽町サービス利用者一人当たりの給付額の推移は、総額では、16,407 千円減少しています。

図表 65 サービス利用者一人当たりの介護給付費

(単位：千円)

サービス種別	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
総額	626,821	613,523	619,049	621,764	646,765	610,414
居宅サービス	108	100	107	110	110	110
地域密着サービス	130	120	121	120	129	143
施設サービス	246	303	251	258	260	260

(各サービスは延べ人数割)

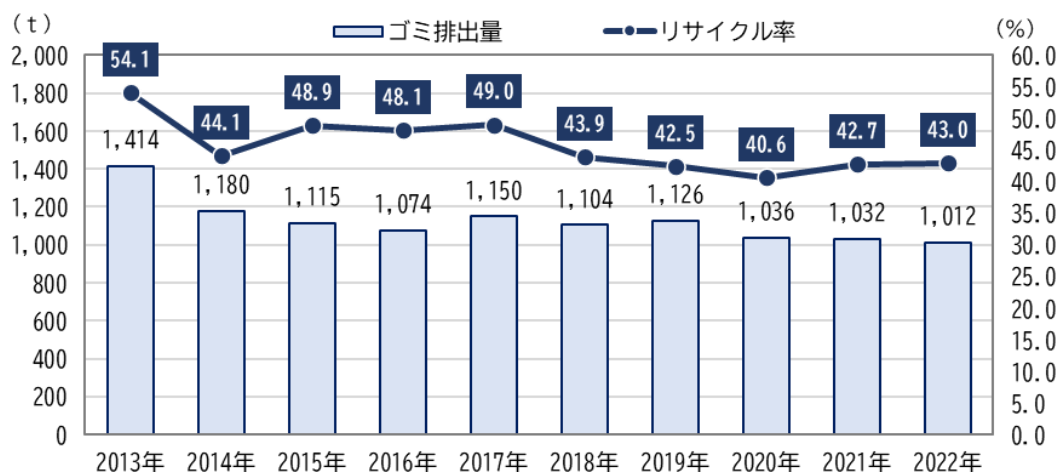
出典：南木曽町の統計資料 2023

第7章 環境・エネルギーの状況

1. ゴミの排出量

ゴミの排出量は、2013年に1,414tでしたが、2022年には、1,102tになり312t(22.0%)減少しています。リサイクル率は、2013年には54.1%でしたが、2014年には50%を下回り、2022年には、43.0%まで減少しています。

図表 66 ゴミ排出量とリサイクル率の推移

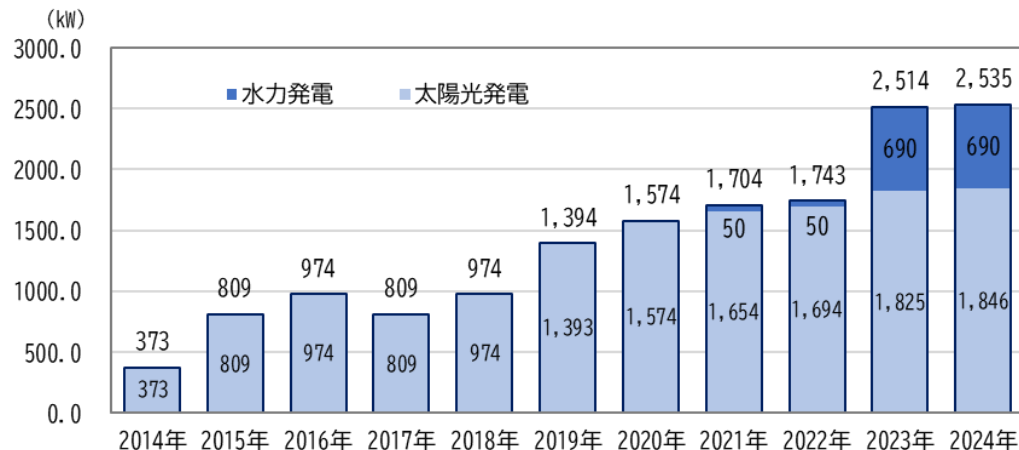


出典：環境省 一般廃棄物処理事業実態調査

2. 再生可能エネルギー導入容量

再生可能エネルギー導入量は、太陽光発電が2014年に373kwでしたが、2024年には1,846kwと、約5倍に増加しています。水力発電は、2021年にはじまり、50kwから、2023年以降は690kwと14倍近く増加しています。

図表 67 再生可能エネルギー導入容量の推移



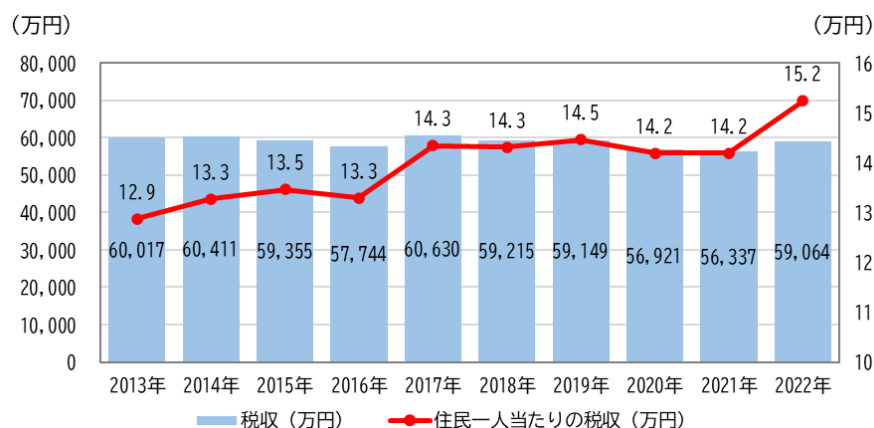
出典：経済産業省資源エネルギー庁 固定価格買取制度 情報公表用ウェブサイト

第8章 行財政の状況

1. 税収入および住民一人当たり税収入の推移

町の税収入は、2013 年度で、60,017 万円でしたが、2021 年度はこの 10 年間で最も低い 56,337 万円となっています。2022 年度では 59,064 万円と前年度との比較で 2,727 万円増加となっています。また、住民一人当たりの税収入は、2013 年度には 12.9 万円でしたが、2022 年度には、15.2 万円と、2.3 万円（17.8%）増加しています。

図表 68 地方税の収入済額と当該年度の住民登録した者(1/1)で除した額の推移

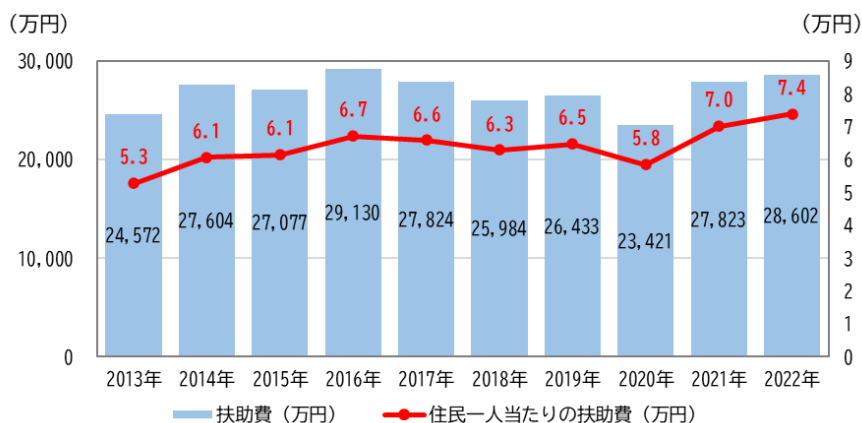


出典：長野県 市町村別財政状況資料集

2. 町民一人当たりの扶助費

扶助費は、総額で 2013 年度は、24,572 万円でしたが、2020 年度はこの 10 年間で最も低い 23,421 万円となっています。2022 年度には 28,602 万円となっています。住民一人当たりの扶助額は、2013 年度は、5.3 万円でしたが、2022 年度には 7.4 万円となっていますが、2022 年度との比較では、1 万円増加しています。

図表 69 扶助費の決算額と当該年度の住民登録した者(1/1)で除した額の推移



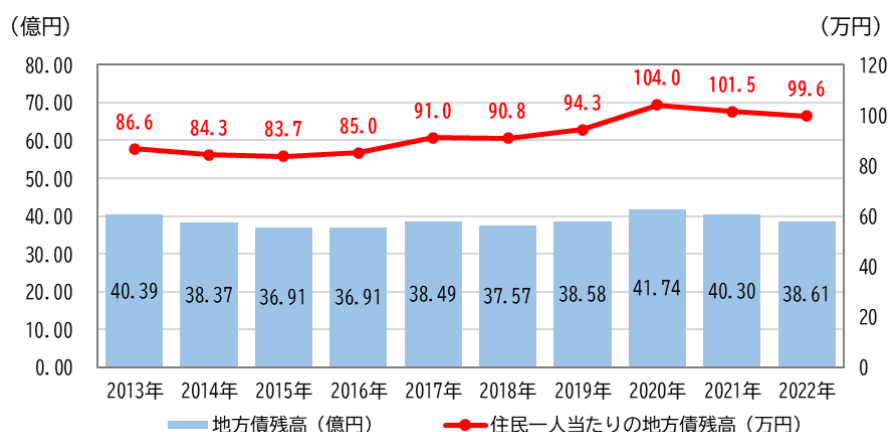
出典：長野県 市町村別財政状況資料集

3. 町民一人当たり地方債残高

公債費残高は、2013年度は40.39億円でした。2020年度はここ10年間で最も高い41.74億円となっています。2022年度は、2020年度より3.13億円下がり、38.61億円となっています。

住民一人当たりの公債費は、2013年度で86.6万円でしたが、2020年度にはここ10年間で最も高い104.0万円となっています。

図表 70 毎年度末の地方債の残高と当該年度の住民登録した者(1/1)で除した額の推移



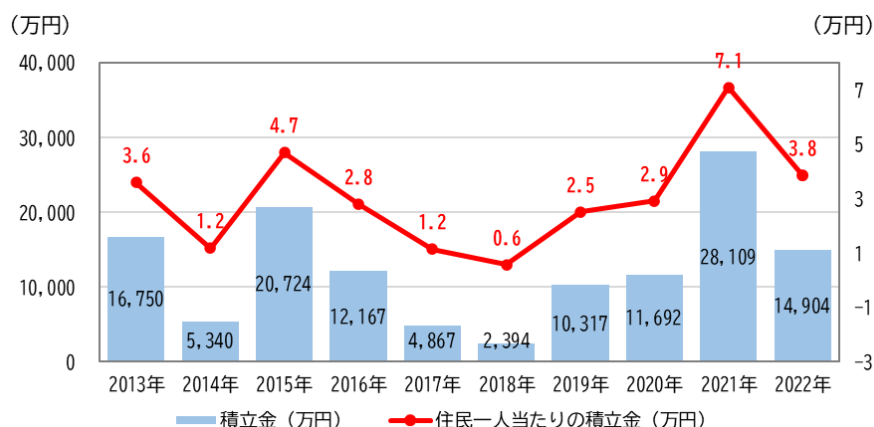
出典：長野県 市町村別財政状況資料集

4. 町民一人当たり積立金残高

積立金は、2013年度は、16,750万円でした。2021年度はこの10年間で最も高い28,109万円となっています。2022年度は、2021年度より13,205万円下がり、14,904万円となっています。

住民一人当たりの積立金は、2013年度で3.6万円でしたが、2021年度にはこの10年間で最も高い7.1万円となっています。

図表 71 南木曽町の積立金の額の推移と当該年度の住民登録した者(1/1)で除した額の推移

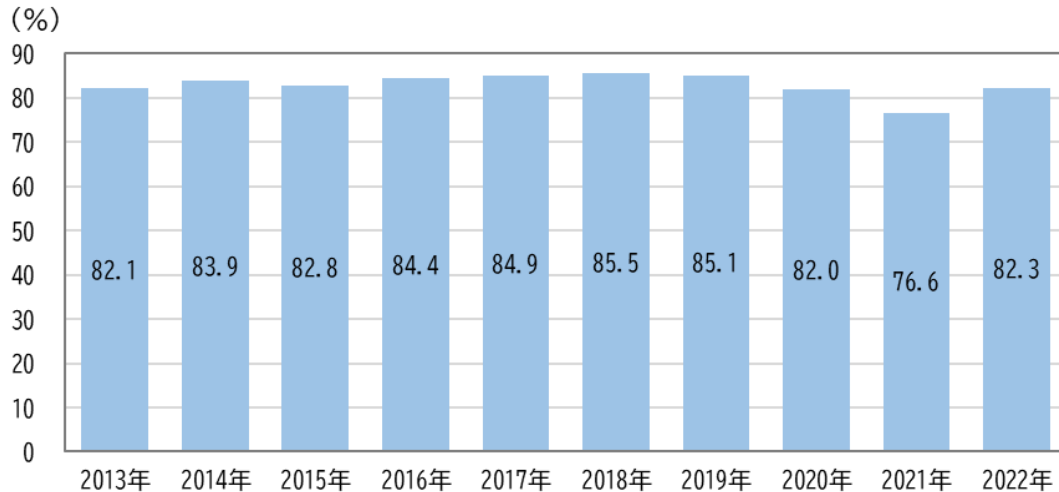


出典：長野県 市町村別財政状況資料集

5. 経常収支比率の推移

経常収支比率は、2013年度は、82.1%でした。2021年度はこの10年間で最も低い76.6%となっています。2022年度は、2021年度より5.7ポイント上昇し82.3%となっており、2013年度の収支比率に近い割合となっています。

図表 72 経常収支比率の推移

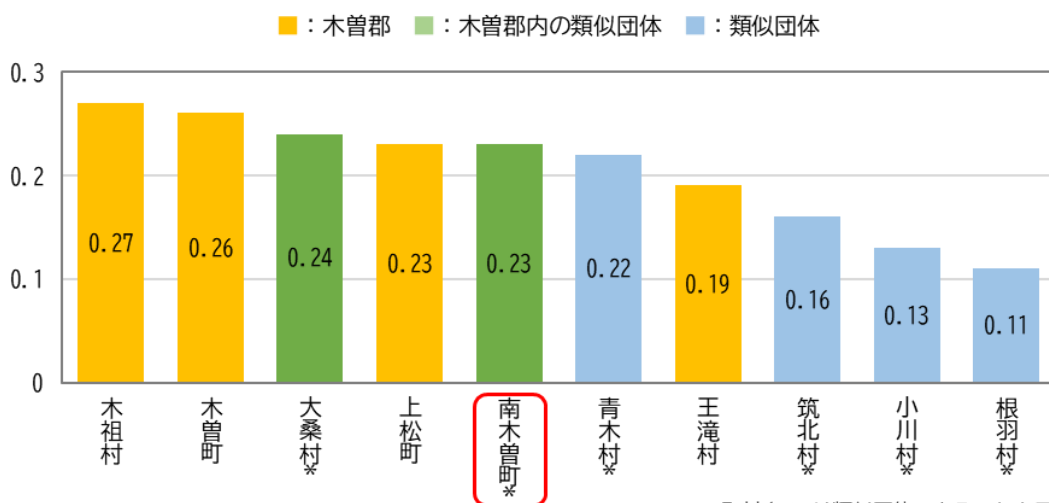


出典：長野県 市町村別財政状況資料集

6. 木曽郡内町村及び類似団体との財政指数の比較

南木曽町の財政指数は、0.23であり、木曽郡内では上松町と並んでいます。類似団体との比較では、大桑村の0.24に次ぐ値となっています。

図表 73 令和5年度の財政指数に関する木曽郡内町村と類似団体の比較



町村名の*は類似団体であることを示す

出典：長野県 市町村別財政状況資料集